興奮再現。

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ¥43,800

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオ パディスコ8030 TRK-8030 ¥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システム パディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット¥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ¥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ¥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)502-2111
日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館) TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

男子ナショナル、女子「ヒポバンク」

オーストリア・シリーズ決まる

日本協会は、7月21日の常務理事会で、8月のオーストリア・シリーズの日程、来日メンバーなどを、明きらかにした。

それによると、オーストリアチームは、本誌既報のとおり、男子はナショナルチーム、女子は「ヒポバンク・シテイセンター・セントポールテンHC」で、総勢、役員9、選手30名（ほかに随行者11名）という大世帯、8月31日午前10時40分成田国際空港着のソ連国営航空機で来日の予定である。

試合は、男子6、女子5が組まれ、男子は全日本が2戦、女子は全日本、全日本ジュニアが各1戦を行なう。

◇　◇

このシリーズは、日本協会が、11月のモスクワ・オリンピックアジア予選（台湾＝内定）に備えて頂点強化の総仕上げとして招待したもので、オーストリア男子は、今春2月の第2回世界選手権Bグループ9位、平均身長も184cmと、181cm程度の全日本に、ほとんど変わりなく、「かっこうの相手」（幸田末之男子強化部長）といえる。

来日メンバーは、ラインバッハー、ブレッフ、ガンゲル、メイアー、ホイデルヒッツ、ツアルツアーなどベストの布陣だ。

全日本とは、今春4月、ウイーンなどで3連戦、オーストリアが2勝1敗（本誌第174号参照）と勝ちこしているが、ガンゲルとラインバッハーは、この時二人で32ゴールを叩き出している。

ただ、202cmの左腕・クリューベック、シャープな力をもつフーバーの両選手の名が見えないのは、惜しい。

異色の選手揃えた女子

一方、女子「ヒポバンク」は、最近3シーズン、オーストリア全国リーグで3連勝した強チーム。

特に、去年、今年は全勝で、ヨーロッパでも有数の単独クラブ。

オーストリア女子の実力は、必ずしも高くはないが、「ヒポバンク」だけは別格という。

それというのも、このチームの主力ホリイ、アーヌスタッド、ピネド、GKボックは、いずれも外国ナショナルの経歴をもつ〝助っ人〟だからだ。

特に、〝ボール捌きの天才〟といわれるホリイは、ポーランドナショナルで57回の公式戦出場を誇った花形、アーヌスタッドは、ノルウェーナショナルの主力だった。

また、プロコップは、陸上競技で、オーストリアの生んだ最高の女子選手といわれ、一九六九年に5種競技の世界記録をマーク、メキシコオリンピックでは、同種目で、堂々、銀メダルを獲得しているという異色のキャリア。主将のシコーラも、一九七三年、四百メートルハードルで世界記録をマークした元陸上選手。

なお、男女の全日本、女子の全日本ジュニアのメンバーは、8月25日頃、発表される予定。

日　程

日	対戦	会場
・9月1日	男・対三陽商会・三景連合 女・対大崎電気	（駒沢）
2日	男・対全日本 女・対全日本	（東京体育館）
4日	男・対日新製鋼 女・対日立栃木	（呉市） （栃木市）
6日	男・対湧永薬品	（広島市）
7日	男・対全日本 女・対大和銀行	（大阪市）
8日	男・対大同特殊鋼 女・対全日本ジュニア	（名古屋市）

・いずれも試合時間は未定

オーストリア来日メンバー

○……男子（ナショナルチーム）……○

・団　長　アダルバート・グラビック
・監　督　ローラント・シュネッツアー
・コーチ　ハラルト・ディッテルト
・マッサージャー　ゲルハルト・ハッカー
・選手

	氏名	年令	身長	公式国際戦	職業
GK	アンドレアス・コルラル	(22才)	192cm	初	学生
	フランツ・ツオーニイ	(30)	184	29回	会社員
	ヘルムート・ヘリッチュ	(22)	180	11	学生
FP	ヘルムート・ラインバッハー	(23)	194	31	会社員
	ヴァルター・ブレッフ	(30)	186	59	技師
	ラインホルト・シュタインシェラー	(23)	186	21	会社員
	クリスチャン・ティーヘンベック	(20)	186	6	学生
	ハインツ・ケプリンガー	(25)	186	初	教師
	トーマス・ガンゲル	(22)	185	29	会社員
	リヒヤルト・グツイーク	(31)	185	17	教師
	ウェルナー・フレッス	(22)	185	15	会社員
	パウル・メイアー	(23)	182	34	会社員
	ギュンター・ゾウクプ	(21)	182	2	学生
	ペーター・フブマン	(27)	180	2	教師
	アルビン・ホイデルヒッツ	(27)	178	35	会社員
	ディーター・ツアルツアー	(25)	176	47	教師

○……女子（ヒポバンクHC）……○

・団　長　ハインツ・ミューラー
・副団長　Dr・ミヒヤエル・バグナー
・監　督　グンナー・プロコップ
・コーチ　ヴィンター・ヴイル
・会　計　Dr・スルフ・ボルフガング
・選手

	氏名	年令	身長	職業
GK	マツゴルツアタ・ボック	(34才)	170cm	教員
	アンニ・ストックル・シコーラ	(30)	162	秘書
FP	アンネ・アーヌスタッド	(27)	179	学生
	ガビ・ゲバウエル	(21)	178	学生
	ドリス・デイ	(19)	178	学生
	リーゼ・プロコップ	(38)	175	主婦
	マリア・シコーラ	(32)	172	教員
	エレオノラ・ホリイ	(26)	171	教員
	クリスタ・ドンハウゼル	(24)	170	教員
	エリカ・シモン	(19)	165	商店員
	アンドリア・セドラク	(16)	164	商店員
	バーバラ・ライテレル	(17)	165	学生
	ド・ピネド	(26)	114	学生
	ガビ・シーナー	(17)	168	商店員

来日するオーストリアのハンドボール

木野 実
（全日本コーチ）

(1)オーストリアのハンドボール

オーストリアのハンドボール人口は、協会に登録されているだけで、一万三千人～一万五千人といわれている。その内女子は二千五百～三千人である。

国内には、日本リーグと同様に全国リーグがあり、一部～三部で構成されている。一部、二部共スタットリーグと呼ばれ、各々十チームで行なわれている。三部はレジョナルリーグと呼ばれている。女子は、一部（スタットリーグ）十チームでチャンピオンを争っており、年度末には州の一位同志のチームが、スタットリーグ加入の入れ替え戦ゲームを行なう。

オーストリアのシーズンは、各欧州の国と同様、昨年まで九月から翌年の四月上旬までリーグが開かれていたが、シーズンオフが長いということと、選手強化の為に今年より、プレイオフリーグが、四月上旬から六月末までおこなわれることになった。

プレイオフリーグとは、上位五チーム、下位五チームに分かれてやはり二回戦方式で真のチャンピオンチームを競うもので、たとえ始めのリーグが悪くてもプレイオフで挽回する可能性が残されているわけである。

また、ユーゲントリーグ（十五才～十八才）がウイーンを中心に三〇～四〇チームでおこなわれている。その他各地で多数の老若男女がプレーを楽しんでいる。

今年のオーストリアナショナルチームの戦績は、四月末の日本戦迄四勝七敗二引分。二月末スペインでおこなわれた、世界選手権Bグループでの成績は、十二チーム中、九位だったが上位のチームにもよく善戦したと伝えられている。ナショナルメンバーは、常時二〇～二五名いて、その下にジュニア二五名がリストされている。将来の対策をはじめ、余裕のある人数で強化しているのが伺える。ちなみに先ほど来日したドイツは八〇名の大所帯である。日本もやっと今年から五〇名近くになった。

女子はジュニアも含めて三〇名で構成されていて、今回のメンバーには七名ほどナショナルプレーヤが含まれているものの、国際的には今一歩おくれをとっている。

ナショナルゲームは、多い時で特に世界選手権前では三〇ゲームを消化することもあるとのことでやはり欧州のチームだとつくづく感じずにはいられない。

伝統のあるオーストリアも近年パットしないのも福祉の先実と、若者が遊びの方に気が向いているということであるが、これは、どこの国でも同じと思うのだが…。

しかしながら、協会として、将来のハンドボールについて、ちゃんとビジョンがたてられてあり、一九八六年までの、その長期計画書には、協会の組織、運営から、ナショナルチームの強化案までが詳しく述べられていて、近い将来昔の強いオーストリアが国際舞台に登場してくるのではないかと、期待を抱かせるに十分であり、大いに楽しみな国として注目されよう。

(2)オーストリアナショナルチームの特徴

今春の遠征時にみたオーストリアは、身長は、日本とさほど変らず、日本とよく似ているチームという印象が強かった。中には一九五～二メートルの選手はいるが、全般的にはさほど変らない感じがした。

度肝をぬかれる超ロングシュートも比較的少なく、どちらかというと、ていねいに、正攻法で攻めてくるタイプである。しかしながらやはり欧州の影響は大きく、二年前みたオーストリアとちがって、ローリング戦法から脱皮して、現主流？の個人技を多用した攻めに変身しているのにビックリした。練習だけをみていると、さほど力強いプレーも見失いがちで、地味なプレーが目につく。しかし個々の個人技はかなり高いものがあり特に両サイドのプレーヤー、ポストマンが、どの位置でも、ピポットができ、実にスムースにやってのけているのに感心させられる。

身長は一八二cm位の選手ではあるが、強じんなバネからくりだすピポットプレーは、こまわりがきき、切れの良いプレーである。

むしろ器用な日本選手にとって大いに参考にしてもらい、全員がマスターしてほしいプレーである。

欧州のどのチームでもジャンプシュートが目につくが、むしろこのチームは、全員がステップシュートをよく打ち、ゲームでもつかってくる。従ってどこからシュートがでてくるかわからずディフェンスは気が抜けない。

一見スピードのないチームにみえるかもしれないが、防禦の間を割り込んでくるプレーにはスピードがあり、体重を利用して、ただれこんでくるプレーは強引でしばしば苦しめられた。

またカットインしてからのパスが意外？と正確で、日本としても十分学ばなければならない点の一つである。

攻撃においてもう一つ注意したいのは、フローターとポストマンサイドとポストマンのブロックプレーが、タイミングよくおこなわれかなり成功させられた。特に日本ではこういったチームの縁の下のプレーヤーをないがしろにする傾向がマスコシをはじめ一般の人に強く、優秀プレーヤーの選考も得点者、アタッカーに集中して、本当にゲームに必要なこういった地味なプレーヤーをじっくりみてほしいし評価してほしいところである。

この様に決して過去来日した、ユーゴ、西独等にハデなところはないが、ミスのない、ブロックプレー、鋭いカットインなどのきれいなハンドボールがみられるのではないだろうか。

遠征時、オーストリアはAグループの日本には到底勝てないというマスコミの予想を裏切ったのは一見やさしそうな男達のすばらし

いファイティングスピリットがあったからこそであり、今でも強く印象に残っている。

今回もその気力溢れるそして真面目な、ひたむきなプレーは、日本各地のハンドボール愛好者に好感がもたれることであろう。

二〇二㎝のゲルユーブェック(左)の来日が危ぶまれているが、冷静な判断力でチームをひっぱる主将ブロッホを中心に、日本を苦しめた。アタッカーであり突進力のある、ガンゲルをはじめラインバッハ。テクニシャンのメイヤー(左)スタインシェーラー(左)らが注目されるところである。

GKは小柄ながらのヘリッチュが俊敏な動きをみせ、大型化しているの中にあって守備範囲の広さは定評のあるところである。

監督のシェネッツア氏は柔和で冷静な腕をもっており、今回遠征の時、日本と対戦しなかった選手を六名もつれてきているのをみると、その選手の起用の仕方でどんな選手がおもいがけず活躍するか期待がかけられている。

(3)日本チームの戦いいかに

今春遠征時の対オーストリア戦は一勝二敗と負け越しているので今回は二勝し、勝ち越したいところである。また湧永、大同のトップチームも勝機が十分あり戦いが注目されるところである。

敗因の反省は、やはりいつもいわれている防禦の甘さからくるものがほとんどといえる。

リンフェントで簡単に破られたり、ワンブロックでシュートを打たれたりするケースが多々みられたので、今回同じパターンでやられない守りが必要である。

フットワークは勿論のこと、読みのない防禦が、あたりなどが後手になって、体重を利用されたプレーでペナルティにもっていかれてしまう。記録の上からみても、三ゲームで二〇本のペナルティーをとられている。テクニックで攻めてくるタイプには、なんとかもちこたえられるが?逆にソ連等を代表するパワーハンドボールに対しては極端にもろいところがある

積極性のある防禦、そして腕を中心とした上半身の強化は申すまでもない。

アジア予選、本来のモスクワ本番をひかえ、今春の借りを返す絶好の機会であると同時に、日本に似てシャープな細かいプレーを得意とするオーストリアという願ってもない好相手に恵まれたことは幸運である。

今年三回のゲームで、だいたい手の内も解っているだけに、今回はまさに、力の出しくらべであり好ゲームが期待できよう。

日本としては、遠征以来、個人の能力アップを計ってきており、防禦も先の西独戦の様なはげしい、積極的な守りがみられれば、問題のない相手と思われるのだが…。

攻撃的には、どうしても蒲生一枚にたよらざるをえないところに苦しさは隠せないが、幸いチームにまとまりもでてきており、また個々のレベルアップもあるので、おもいきりの良いプレーを期待したい。

従ってあまり型にとらわれすぎて個々の特性を失わず、しかも自分の役割、仕事を忠実にこなせば(特にボールのない時の攻めの強さ等)コンビネーションプレーを随処にもっているだけに、日本人の良さであるスピードののった攻撃が展開できるだろう。

今一つ選手に注文を付けるとすれば、ペナルティを誘う、もしくはペナルティまで強引にもっていくプレーをもっとだしてほしいことである。オーストリア戦ではペナルティがわずか七本しかとれなかった。この問題は個々のプレーヤーのタテへの突っ込みの弱さ、カットインのスピード不足であり、大きな課題として残っている。

こういったプレーが、つねに連続的にでれば、チームにカツを入れ、力強いハンドボールにつながるだけに、ハッスルプレーがほしいところである。

更に今回のゲームで是非試みなければならないのはサイド攻撃である。過去日本チームは、サイドには優秀なプレーヤーを擁しており、日本の得意とするボディションであった。

現ナショナルチームにも、個性のあるプレーヤーがいるのであるから、今回サイド攻撃に頭をおきどこからでも攻撃できる糸口をつくることである。ちなみに対オーストリア戦のサイド攻撃はシュート数でわずか七本。

ゲーム展開においては、今のハンドボールは大変こわい。いったんリズムが狂えば十数分間無得点という空白時間がつづくことがしばしばである。今や4~5点のリードは安全圏の時代ではなく、最後の笛が鳴るまでわからない。

自らリズムをつくり、ベースをつくっていく心掛けと注意力、これは、ベンチを含め全員が持ち合わせなければ完璧なゲーム運びは出来ないだろうし、勝利はありえない。オーストリアと言えども世界の上位クラスと互角に戦う力があり日本としては、自国でやるゲーム安心して、伸びのびと思い切りのよいプレーを期待したい。

モスクワをめざすこの時期に、勝敗以上に、このゲームにより、いかにモスクワへつなげるプレーが発揮でき、そして今後自信となるプレーが生みだせるか、日本代表チームにとっては、今回は大切なゲームであり大事にしていきたい。

(立教大OB・湧永薬品)

「ハンドボール」

54年8月号(第177号)目次

【表紙写真】西ドイツシリーズ第3戦・東京での全日本戦からクルースピースの豪快な攻撃ぶり。

【スポーツイベント社提供】

●デサントハンドボールウェアは日本ナショナルチーム(男女)/日本リーグ(男女)/大学選抜(男女)で採用されています。

勝ちぬく速攻メカ。

写真：DSS-201 衿付長袖シャツ(肩アクションライン) ¥3,400●スクラムニット●ポリエステル50% 綿50%●S·M·L·O STUDIUMはデサントの登録商標です。

THE STADIUM®

DESCENTE

《本格派》デサント・ハンドボールウェア/ザ・スタジアム

JOC-MS-2-79-1

1980 MOSCOW デサントはモスクワ五輪に協力しています。

発売元/株式会社デサント

「ジュニア・ナショナル」決まる

高校界から9選手

日本協会は、7月21日の常務理事会で、懸案の「ジュニア・ナショナルチーム」の男女リスト合わせて50名を承認した。

去る4月から強化部が中心となって選考を進めていたもので、昨年度までは「ヤング全日本」の名で毎年一度、名簿が発表されていた。

荒川理事長の説明では、今回のリストと、今秋の世界ジュニア選手権とは直接関係ないとしているが男子は、明きらかに、世界ジュニアを意識しての選考で、全選手が、同選手権に出場資格のある「昭和33年以降生まれ」になっている。

一方の女子は、理事長談話そのままに〈ナショナル予備軍〉的カラーが強く、世界ジュニアの年齢オーバー7選手も含まれての発表となった。

男女とも、8月に強化合宿が行われる予定で、女子は、1頁所報のとおり、このメンバーのなかからオーストリア（ヒポバンク）戦出場者が決められる。

なお、今回選考された選手は、ナショナルに昇格するか、よほどの事情で辞退しない限り、満22才まで「ジュニア・ナショナル」となる。

日本協会の本格的なジュニア対策は、男子が、47年度から、女子が昨年度からスタートを切っていたが、今年度ほど、その選手名簿に注目が集っていたことはない。

これは、男女とも、旧来の「ヤング全日本」を、国際的な通称である「ジュニア・ナショナル」に改めたことと、今秋の世界ジュニア選手権へ初出場を決めていた、という二点からである。

「ヤング」のネーミングは、日本協会独得のもので、それなりに評価されていたが、〈ジュニアの強化〉という、国際的、国内的な傾向の強まりから、昨年くれの強化委員会（現・強化部会）で改称を決めていたものだ。

タイミング的には、世界ジュニア選手権の開催年にもあたり、よかったのだが、もう一つ、組織内の意思統一が充分でなく、名簿発表が5月といわれながら、二カ月も遅れてしまった。

発表されたリストは、若い人材発掘に苦心のあとがうかがわれ、男子では、関東学生リーグ4部の佐藤（横浜国大、北陽高出）がピックアップされるなど、これまでになかったスカウティングがある。

女子は、初めて高校選手にも選考のライトがあてられ、5人がリストアップされた。

当初のノミネートでは8人といわれたが、3名が辞退（氏名未発表）、結局、5名のみが残ったようだ。

いずれも、大型プレイヤーで、強化部が打ち出した「170cm以上」という線に近い。各選手とも、8月の合宿は、国体予選などで不参加と伝えられているが、「ヤング」からの慣習で、一応、男女とも、いちどリストアップされたら満22才までは、名簿に残ることになっており（あるいは、ナショナルへ昇格）今後の活動に、注目が集まる。

荒川理事長は「男子の32年以降生まれの若手をすでに、ナショナル・チームに加えた。

女子の33年生まれは、世界ジュニアには出られぬが、前年の引きつぎだ。彼女たちは満22才までこのままリストに残る」という。

世界ジュニアは再選考

さて、注目の世界ジュニア選手権代表メンバーはどうなるか。幸田、柳井男女強化部長は今回のジュニアのほか「ナショナル・チーム」に加わっている有資格者を加えて、改めて8月上旬に選考する」といっている。

ナショナル内の有資格者というのは、男子は、山口、仲田、北川井藤、西山、田口、猪野、金井の8人を女子は井村(立石)、矢部（ジャスコ)、水上（日立）の3人を指す。高校生が加わるかどうか、など、これまた興味深いノミネートとなろう。

―ジュニア・ナショナルチーム―

（右欄は生年）

○……男　子（21名）……○

氏名	所属	身長	生年
・GK			
山下　真樹	（京都産大）	185cm	昭35
北川　道隆	（広島大）	188	昭35
矢内　浩	（国士館大）	189	昭34
蓑輪　正雄	（名城大）	186	昭35
小野　司	（久留米工大付高）	183	昭36
水谷　一仁	（氷見高）	177	昭36
・FP			
三浦　力	（日体大）	183	昭35
寺山　敦雄	（日体大）	179	昭35
佐々木　功	（日体大）	188	昭35
高村　誠一	（日体大）	187	昭35
原田　新治	（湧永薬品）	182	昭34
内田　明克	（湧永薬品）	181	昭34
平井　裕康	（明大）	185	昭34
高橋　卓也	（明大）	189	昭33
田野　好晃	（京都産大）	184	昭34
高木　俊二	（日新製鋼）	184	昭34
尾上　良生	（中大）	178	昭34
森本　均	（法大）	178	昭34
佐藤　慎二	（横浜国大）	185	昭35
若杉　正裕	（久留米工大附高）	180	昭36
実方　智	（中大附高）	181	昭36

○……女　子（29名）……○

氏名	所属	身長	生年
・GK			
藤野千恵美	（日女体大）	174cm	昭34
藤井美智子	（日体大）	170	昭34
荒木　晴美	（熊本女商高）	171	昭36
西村　和子	（熊本市高）	170	昭36
・FP			
植田　和子	（ブラザー工業）	155	昭33
則武美智子	（ブラザー工業）	167	昭33
川村　豊子	（ブラザー工業）	164	昭33
山村　雅子	（ブラザー工業）	159	昭35
杏原　礼子	（ブラザー工業）	174	昭35
竹内　保子	（ブラザー工業）	163	昭35
寺村かすみ	（日本ビクター）	163	昭33
岩城　由江	（日本ビクター）	161	昭34
姫野五十鈴	（立石電機）	154	昭33
薮田　典子	（立石電機）	165	昭35
辻本　典子	（ジャスコ）	166	昭34
山本二三代	（ジャスコ）	160	昭34
西田　早苗	（大和銀行）	158	昭33
千原　彰子	（大和銀行）	170	昭34
大崎　由季	（日体大）	167	昭34
石井　幸	（日体大）	162	昭35
石井美沙子	（大崎電気）	167	昭34
藤本　陽子	（東女体大）	160	昭33
坂本由美子	（東女体大）	152	昭34
寺西富美枝	（東京重機工業）	169	昭34
八木千津子	（北国銀行）	155	昭34
大高　良子	（日立栃木）	175	昭34
野田　尚美	（熊本女商高）	172	昭36
乗田めぐみ	（水俣高）	164	昭36
太田　恵	（昭和学院高）	168	昭36

全日本連敗，大同は大金星逃す

初夏を飾るビッグシリーズ―世界チャンピオン・西ドイツ男子ナショナルチーム（B・ティーレ団長ら役員10，選手15）を迎えての国際親善試合は7月5日から京都，名古屋，東京の3連戦で行われ，西ドイツは王者のパワーを存分に発揮，改めて“世界の力”を印象づけた．

迎えうった日本勢も，オリンピック目指す全日本が，大きな成長のあとを示したほか，チャンピオンチーム大同特殊鋼（愛知）が単独の持ち味を活かして引き分けという大善戦でファンを沸かせた．

<杉山　茂・NHK運動部>

西ドイツ、“王者のパワー”存分

GK福井が盛り上げる

第1戦・全日本との1回戦は、7月5日午後6時30分から、京都府立体育館で行われた。審判＝狩野幸介、光島磯雄、観客＝約二千

西ドイツ 22（13－7、9－10）17 全日本

得	【全日本】	
0	福井（湧永）	GK
0	井藤（日体大）	GK
3	津川（湧永）	FP
1	斉藤将（湯沢ク）	FP
0	斉藤幸（大崎）	FP
3	山本（湧永）	FP
0	穂積（湧永）	FP
7	蒲生（大同）	FP
1	関（三陽）	FP
0	志賀（湧永）	FP
2	大原（大同）	FP
0	中本（大同）	FP
17	PT（3）	

得	【西ドイツ】	
0	ホフマン	GK
0	ニーマイヤー	GK
2	マイジンガー	FP
1	ダムマン	FP
1	スペングラー	FP
5	エーレット	FP
6	クルースピース	FP
0	オーリー	FP
1	バルッケ	FP
4	フライスラー	FP
0	フアイ	FP
2	ブンデルリッヒ	FP
22	PT（5）	

○…開始55秒、ダムマンがシュートを失敗したあと、帰陣する西ドイツ選手に、早くも、ステンツェル監督が一言二言。

なんと、この指示は「マン・ツウ・マンディフェンス」だった。

今や、めったに見られぬ防禦シフト。さぞかし、全日本は慌てるだろうと思ったが、午前中の西ドイツ初練習で、しきりにマン・ツウ・マンを繰り返していたのをコーチ陣が偵察ずみ。この策戦は予測していたそうだ。

2分エーレットにPTを決められ、先行を許したが、すぐに蒲生が、相手シフトを巧く切り崩して同点、3分クルースピースにFTから割りこまれたが、チャンスは日本のほうが多く、善戦の期待できる滑り出しとなった。

○…10分3－2となって、西ドイツは、ベンチから指令をとばしゾーンディフェンスに切り替え。

試合後、ステンツエル監督は、「マン・ツウ・マンは、日本の動きを測るために採ったのではなく西ドイツ各選手の調子を見るためだった」と語っているが、このあたりの判断は、さすがにみごと。

〃王者の余裕〃ともいえる。

全日本は、よく動き、11分速攻を斉藤（将）が決め同点、そのあとフライスラーに二本決められながら、その都度、手固く返して、16分5－5とピッタリ。

○…西ドイツは、もっぱら個人の突進に頼り、18分リバウンドから、19分30秒FTから、いずれも〃得点王〃エーレットのみごとな攻撃力で2点をあげた。その直後マイジンガー－バルッケの速攻をGK福井が好キープしたのは、この試合の一つの〃点〃になった。

もし、このプレーがなければ、全日本は、完全に後手にまわってしまい、早々と、相手にペースを奪われてしまったと思う。

そこを食い止めて、反撃の気分を取り戻させ、事実、20分PT（山本）で6－7、22分蒲生が、名手ホフマンの左肩口を抜くロングを決め同点としたのだから大きかった。

○…元気な全日本は、24分クルースピースに8－7とされながら26分蒲生－大原でスカイプレーを決め同点、28分再びクルースピースの強引技にリードされたが、29分PT（蒲生）で持ち直し、スタンドを喜ばせたばかりか、残り15秒、全日本のユニホームを初めて着た大原が、ファイの執ようなマークに会いながら体をあずけ、浴びせ倒すような形からシュートを決めるという絶妙の攻撃で10－7〃逆転〃に成功した。

○…後半開始直後、西ドイツはフライスラーの、すばらしいジャンプショットで10－10。そのあと互いに反則退場者を出すラフな展開から得点が途だえたが、西ドイツは、6分エーレットの滞空時間の長い飛びこみシュートで8回目の先行。

全日本は約7分間ノーゴールという行き詰まり、今度こそ、西ドイツが、一気のたたみかけを見せるかと思えた。

しかし、全日本は、7分山本－蒲生という珍しいコンビによるスカイプレーの成功で気をとりなおし、8分GK福井－蒲生、9分福井－山本の速攻と〃お家芸3連発〃。あっという間に2点のリードを逆に奪った。

この反撥力は、かつてないもので、しかも堂々の正攻法からポイントとしたもの。賞してよい内容だったが結果からすれば、それは一場面でのみ発揮されたパワーにすぎなかった。

つまり、この直後、全日本は、穂積の反則退場があり、リズムを崩し連続4失点。攻撃も約7分間ノーゴールという低迷で、西ドイツに、余裕を与え、強いては、試合の行方も決められてしまうことになったのだ。

○…スコアブックをみると、16分蒲生－山本－関と渡る空中戦法の成功で14－15と迫る場面がありそのあとの崩れが、勝負を左右したようにみえるが、最大の分岐点は、逆転後の4失点にあったと思う。

竹野監督も「13－11のあと、穂積の退場がなければ…」と惜しんだし、そのほか、13分関がノーマークを落す逸機や、13分20秒、凡ミスを拾われ、ブンダーリッヒになだれこまれたような失敗もある

ここらあたりが、全日本の課題だ。

かつてない反撃ぶりを見せたあとだけに、よけい、〃自滅〃が目立つ。

○…終盤は、〃世界と日本〃の差がまざまざ。

全日本は16－18から21分フライ

スラーにミドルを決められると、それまでの善戦の糸がプッツリ。

一気に疲れがのぞいて、守っては、クルースピースの力感あふれたボディワークに引きずられ、攻めては22分のPT（蒲生）後、追加点なし。

「最後の10分間だけ本領を見せたのかしら」という女性ファンの声も聞こえて、全日本は散った。

試合前、「5点差以内なら賞していい」といっていた日本協会・荒川理事長の言からすれば、まずまずといえる試合ぶりで、特に、GK福井が好守でチームを盛り立てたのは光ったが、全日本が持てる力をほとんど発揮したのに対し西ドイツは、中国転戦の疲れ、5月以来の公式戦など、とてもベストと呼べる状態ではなかった、と知れば、そう喜んでよいものでもあるまい。

ステンツエル監督は「個々のプレーの質を高める必要がある」と全日本を評したが、記者席でチェックした攻撃（マイボール）回数は西ドイツ41回に対し、全日本48回。

それでいて、西ドイツ主導で、試合が運ばれた印象のほうが強く残っているのは、ステンツエルの指摘が、的を得ているからといってよいだろう。

判定不満、中断のハプニング

第2戦・大同特殊鋼(悪知)との試合は、6日午後6時から名古屋市体育館で行われた。審判＝光島磯雄、狩野幸介、観衆＝千六百（満員）

西ドイツ 15（10－7 / 5－8）15 大同特殊鋼

引き分け

○…京都から3時間近いバス・ツアー後の試合。

こうした行軍は、なれているハズの西ドイツだが、彼らを悩ましたのは、場内の湿気。

西ドイツ・メンバー

・GK

①M・ホフマン	190cm
⑫R・ラウアー	193
⑯R・ニーメイアー	190

・FP

⑧H・スペングラー	183cm
⑮K・クルースピース	195
⑭H・ブラント	193
⑬A・エーレット	180
④D・バルッケ	187
⑩C・ファイ	196
⑥P・マイジンガー	186
⑨E・ブンダーリッヒ	204
③H・オーリー	191
⑦F・ダムマン	185
②A・メフレ	184
⑤M・フライスラー	197

・コーチングスタッフ

V・ステンツエル

R・スペングラー

・主要役員

B・ティーレ（団長）

E・ヘック（技術委員長）

F・ベークフェルト（マネジャー）

Dr・H・レベルゲ（医師）

・○内数字は今回の背番号

得	【西ドイツ】		【大同】	得
0	ホフマン	GK	柳川兄	0
0	ルドルフ	GK	大園	0
0	メフレ	FP	中井	1
1	オーリー	FP	花輪	0
1	バルッケ	FP	柳川弟	4
1	フライスラー	FP	大原	1
1	マイジンガー	FP	中本	0
1	ダムマン	FP	蒲生	5
4	エーレット	FP	松原	1
4	ファイ	FP	藤中	3
2	スペングラー	FP	更谷	0
0	ブンダーリッヒ	FP	浦田	0
15	（3）	PT	（1）	15

「これはたまらん、早いところ勝負のメドを」とばかり、スタートから強引なプレーで、大同陣に襲いかかった。

このスパートは、一応、奏効し5分までに、PT2本を含み3－1とリードを奪うことへつながった。

○…しかし、野望満々の大同は7分すぎ、蒲生のジャンプシュートであっさり同点にしたあと、柳川弟が、腰高の相手ディフェンスをアンダーシュートでついて2点連取、一気に5－3と戦況を変えた。

西ドイツは、第1戦よりもコンビのとれたプレーをみせ、12分ファイ、15分フライスラーが、セットプレーからの変化を活かしてゴール（5－5）、大同は15分40秒、大原が、柳川と同じようにタイミングのよいバウンズシュートをとばして、必死に優位をキープした。

西ドイツは、再び強引な策に出る。17分、スペングラーが〝十八番〟のポストプレー、18分ダムマンが大同の激しい守りをはねのけてサイドプレー、7－6。

大同もひるまず、22分柳川の速攻で4度目のタイ。しかし、西ドイツは24分エーレットが、鮮やかなドリブル独走でゴールを突き刺し、再び先行。28分エーレット、29分ファイの追い討ちもあって、前半10－7と一息ついた。

大同も、何回か得点機はあったのだが、前半なかばからホフマンに代ったルドルフの張り切ったキーピングにおさえられ、21分以降ノーゴール。

しかし、全員の豊かな国際キャリアは、王者に対しても、堂々たるもの、後半への期待を高めさせたが、それが、波乱にみちたものとなろうとは、この時点では、とても想像できるわけがなかった。

○…後半開始後、大同は3分中井が右サイドから、4分松原がポストからと、ベテランらしい動きでゴールを奪い9－10、そして藤中をつぎこむというベンチワークの冴えをみせた。

大同の闘志を振り切るように、西ドイツは41分30秒マイジンガーがロングを決め、追いつかれてもすぐ引き放すぞといったパワーをみせつけた。

大同は、直後の攻撃でPTを拾い、代打・更谷を送ったが、惜しくも失敗。西ドイツは、勝負どころとみたか、激しいローリングから、7分好調ファイがとびこんで12－9。

ところが、そのファイが次のプレーで反則退場を課せられ、西ドイツベンチが色めき立った。

彼らには「この日の当り屋を狙い打ちにされた」とみえたのだろう。

もちろん、そんな細工があろうハズはないのだが、むし暑さにいら立つ西ドイツは、3点の優位も忘れさせるほど、このプレーにこだわった。

大同・野田監督は、試合後「あのあたり、なぜか西ドイツは焦っていた」という。

一方、選手は、いっそう闘志に火がつく。9分藤中－柳川の好パスプレーが実って10－12。

○…プレーからそれるが、ここで藤中のことについて書いておこう。

近年、国際的にもっとも名の売れた日本選手といえば、彼である二回の世界選手権とモントリオール五輪でみせた藤中のファイティングスピリットと攻撃技術は、本場ヨーロッパの専門家の間で高い評価をうけた。

昨年の世界選手権不参加が伝わると、西ドイツ紙などは「？」をつけたし、スペイン国際大会のプログラムには、勝手に「フジナカ」

の名が記載された。スペイン関係者にしてみれば、「まさか、フジが来ないなんて…」というわけだったのだろう。
　この日、西ドイツは会場に着いて、その藤中の姿を見つけた。
　一国のスターに対するヨーロッパでの評価は、日本とは比べものにならない。
　藤中の存在と技倆は、当然、選手に伝わったろうし、後半、藤中の登場で、にわかに、西ドイツ選手の目が変わったのでも、それは明らかだ。
　藤中への当りは、新国際スター・蒲生のそれよりも激しい。
　藤中も黙って引きさがるタイプではない。激しく動いて10分25秒2分間退場を食う。
　西ドイツは16分オーリーのロングで13―10、3度目の3点差だ。今度こそ安全圏と思った矢先またファイが退場を食う。大同はすかさず藤中を投入、いきなり得意のジャンプショットで11―13。
　ハプニングのお膳立ては、こうして、じわじわと、しつらえられたのである。
　〇…ハプニング。正にそうだった。19分24秒、勝負をあきらめぬ大同に、西ドイツ守備陣のマークは、きつさを増し、左から右へ流れこむ藤中にダムマンがタックル〃第一の退場〃、すかさず藤中が決めて12―13。
　つづくプレーで、マイジンガーが藤中を突きとばす。〃第二の退場〃。
　この判定を不服としたブンダーリッヒが、巨体を活かして?、大同のポストマンを突き倒し〃第三の退場〃。前代未聞の三人同時退場となったのだ。
　これだけでも、ハプニングといえたところへ、突然、西ドイツベンチからコーチ陣が、本部席へ歩みより、試合を止めさせたのである。
　「レフェリーの判定は感情的で公平を欠き、正常な競技進行を心がけていない。特にマイジンガーの退場理由を聞きたい」というのが、そのいい分。
　競技中に、例え、不満があるにせよ、レフェリングにクレームをつけ、試合を中断させるなどとはあまりにも不見識だったが、大会本部もよほど慌てたのだろう。両レフェリーを呼ぼうとしたところへ、西ドイツ・ティーレ団長がかけつけ、コーチ陣を退かせた。
　もし、ここで、レフェリーの〃事情説明〃が行われたとしたら、一つの汚点を残したといえる。
　それを救ったのが、ティーレ団長の登場だった。
　〇…約5分の中断で再開。FP3人の西ドイツを、大同は容しゃなく攻め、21分藤中でついに同点(13―13)、ダムマンが戻ったあと今度はPT（蒲生）で14―13と逆転。スタンドは、沸きに沸いた。
　正直のところ、これで、大同は勝利を握ることができるのではないかと思った。
　プレーの勢いは、明きらかに大同が上、西ドイツは、一プレーごとに、レフェリーの顔を皮肉っぽくのぞく始末で、投げやりにみえた。
　もし、22分のPT（エーレット）が決まり同点(14―14)とならなければ、西ドイツは、ずるずると後退してしまっていただろう。
　ともかくも、このプレーで、西ドイツに冷静さが戻り、残る7分間は、かつてないスリリングなものと変ったのは、観ている者にとっては救いだった。
　西ドイツは、GKにホフマンを再度送りこみ、スペングラー主将は出ずっぱり。
　〃先手〃は26分蒲生がとった。右45度からのジャンプシュート。
　その直前、スペングラー、エーレットの連続攻撃をGK柳川兄がみごとに防ぐ超美技があり、大同は、完全に勝ちムード。
　西ドイツもさすがだ。26分45秒スペングラーが、この日2本目のポストプレーで同点。
　残り3分を割って大同は、一本の逃げこみを狙う慎重なローリング。
　ところが、その思惑が裏目となって、29分16秒、花輪がオーバーステップをとられ、西ドイツボール。
　残り2秒、ブンダーリッヒ―エーレットで仕掛けたスカイプレーはわずかにパス・タイミングが乱れ、エーレットのシュートは、中途半端な角度にとんで、GK柳川兄が、がっちりおさえるところとなった。
　〇…試合後の記者会見。スエンツェル監督は、めずらしく口が重い。
　――こんな苦戦は初めて？
　「冗談じゃない。タイトルマッチ前のチャンピオンが、練習パートナーに、一発ヒットされた程度のことだ。日本人記者には苦戦とみえましたか？」
　――大同を軽くみていたのではないか
　（それには答えず）「粘るチームだ」
　――あの抗議は
　「今夜のレフェリーは疲れてい

〇…今回の西ドイツ来日は、もとはといえば、西ドイツ―中国両政府によるスポーツ交流によって実現したようなもの。
　西ドイツは、来日前、6月21日から30日まで、中国を転戦、4試合を行ない、全勝した。

▽第1戦（6月23日・北京）
西ドイツ 21（10―9、11―8）17 北京及び軍隊選抜
▽第2戦（24日・北京）
西ドイツ 30（15―8、15―5）13 北京選抜
▽第3戦（26日・南京）
西ドイツ 19（14―6、5―6）12 広東選抜
▽第4戦（28日・上海）
西ドイツ 20（14―12、6―5）17 上海選抜

西ドイツ、中国で四戦全勝

西ドイツ・ヘック技術委員長の話
　中国の実力は、我々の想像以上に高かった。
　身体も大きいし、技術もバスケットボールの特色をいれた独特のもので、ヨーロッパのハンドボール技術、戦術が加われば、4～5年先には、日本を追い越そう。
　特に、上海選抜は、今でも全日本と互角の力があると思う。
　北京の第1戦で一万を越すファンが詰めかけるなど、人気もなかなかだった。
　中国の競技人口は約六万、IHF（国際ハンドボール連盟）への加盟にも、意欲的であった。
　来年は、西ドイツへ、中国を招くことになろう。
〜この談話、名古屋で〜

たせいか、動いて判定せず、感情だけでジャッヂしていた。

それでは、よい試合をお見せできないと思っただけだ」

――三人でプレーした経験は

「ユーゴの国内リーグで一度ある14年も前の話だ。」

――もういちど聞きたい。苦戦の原因は

「むし暑さと疲れ。」

○…ステンツエルからも、選手かもら大同の健闘を賞す言葉は、ついに聞かれなかった。

選手たちは「たまには、こんなこともあるさ」とばかり、体育館を出て、迎えのバスに乗りこむ頃には、つい今しがた〝激闘〟を終えたばかりとは思えぬ和やかな表情をのぞかせていた。

なんとなくキツネにつままれたような試合。

でも、大同はたしかに大善戦、大金星直前だったと思うのは私が日本人記者すぎるからだろうか――。

東京での全日本戦“世界の顔”の一人エーレットは力と技を備えたプレーで全日本ディフェンスをゆさぶりつづけた
（スポーツイベント社提供）

後半鮮やかな攻防示す

第3戦（最終戦）・全日本との2回戦は、7日午後6時57分から東京体育館で行われた。審判＝斉藤実、千野恒夫、観衆＝三千三百

西ドイツ 20（7―9 / 13―5）14 全日本

	【全日本】	得	得	【西ドイツ】
GK	井藤（日体大）	0	0	ホフマン
GK	福井（湧永）	0	0	ニーメイヤー
FP	津川（湧永）	2	4	クルースピース
FP	山本（湧永）	4	3	スペングラー
FP	蒲生（大同）	3	1	ブンダーリッヒ
FP	穂積（湧永）	3	4	エーレット
FP	斉藤幸（大崎）	0	3	マイジンガー
FP	斉藤将（湯沢ク）	1	0	メフレ
FP	大原（大同）	0	0	ファイケ
FP	関（三陽）	1	3	バルッケ
FP	池之上（湧永）	0	1	フライスラー
FP	松井（日体大）	0	1	ダムマン
PT	（1）	14	20	（2）

○…「内容的に最高の試合をお見せできるのは、東京だろう」―来日以来、そういいつづけていた西ドイツ・コーチングスタッフ。

選手も、燃えての会場入りだったが、フロアを見るなり、全員の表情がこわばった。

「デッカルムの倒れたフロアと同じ」だったからである。

J・デッカルム。西ドイツの若きエース。陸上競技で鍛えたしなやかな身体を駆使し、往年の看板スター、ルブキングをもしのぐ人気、実力。昨春の世界制覇にも、もちろん、彼の右腕は大きく貢献した。

そのデッカルムが、試合中の負傷がもとで寝たきりの生活を送るようになったのは、今春のことだ相手選手の激しいマークにあい転倒、側頭部を強打して、いまだに、意識が回復しない。

西ドイツの全スポーツファンがこの悲しいニュースに胸をつまらせた、といわれるが、なかでもチームメートに与えた衝撃は大きかった。東京体育館のフロアが、デッカルムの選手生命を奪ったフロアに似ていたことは、西ドイツにとって、なんとも嫌なものであった。

○…1―0、2―1と先行したものの、たしかに西ドイツの動きは鈍い。

フロアを気にし、思い切りのよさがないのだ。

一方、全日本は、京都で相手の手の内、コンディションを読みとったせいか、積極的な試合ぶりをみせる。

このあたり、最近のナショナルチームのたくましさをのぞかせたといっていい。

新進GK井藤が、4分のPTをはじきとばしたあたりにも、そうした〝自信〟がうかがえる。

6分蒲生が相手ミスに乗じた速攻で2―2としてから、しばらくこう着状態。

均こうが破れたのは津川の独走12分だ。

勢いにのるチャンスだったが、直後、PTを課せられ3―3、15分津川が再び鋭いシュートをとばして4―3としたが、また、すぐあとバルッケの〝空中変化攻撃〟にサイドからゴールを割られた。

○…リードしても、簡単に追いつかれるのは、全日本の悪いクセ

相手チームにしてみれば、少々先行されても、気楽なもの。まして、試合かけ引きに長じた西ドイツベンチともなれば、このあたりの読みは、したたかなハズである

西ドイツは、バルッケのゴール後、めずらしく11分間無得点。やはり、フロアになじめないのだろうか。

全日本は、この間に穂積、山本で3点をあげ、26分7―4とする好調ぶりだったが、27分スペングラーにポストからの巧シュートを決められ、28分PT（山本）で8―5も、29分クルースピースに割りこまれ、29分10秒蒲生が45度からミドルを決め9―6で前半を終えられるかとみえたが、ホイッスル直前、斉藤(将)が棒立ちとなったスキをフライスラーにつかれ9―7にされてしまった。

○…ハーフタイムで、ステンツエル監督は、語気鋭く選手たちに反省を求めた。

「闘志のないプレーで、得点をとっても仕方がない」と。

実は、試合前、会場のフロアにいちばん、顔をくもらせ、「満足なプレーはできない」とまで云ったのは、ステンツェル自身である

これは想像だが、おそらく、選手たちに「ムリをするな」と指示さえしただろう。
　ところが、前半30分を戦ってみて、気が変った。
　全日本から、いつでも点はとれようが、王者の試合ぶりとしては満足といえない。
　ピリッとしたプレーが、欲しかった――。
　その気持ちをストレートに現わし、選手をどなりちらしたのだ。
　この、心に、選手は反撥するどころか、新たな闘志を燃やした。ステンツエルへの信頼感が、そうさせるのである。
　ステンツエルは、にくいほど巧みに、選手を掌握している。
　チームは、彼の意のままに動く逆のみかたをすれば、ベンチの策戦を、完全に消化する能力が全選手にあるのだ。
　今になって考えてみると、試合前、ステンツエルが、フロアを気にしてみせたのは、選手へのゼスチャアであったかもしれない。
　選手の〝恐怖心〟を取り除くため、自からひるんでみせたのかもしれぬ。
　○…こうして後半は始った。4分マイジンガーの速攻、6分クルースピースのカットインで、あっさり同点。8分のPTで逆転だ。
　前半の善戦から、自分のペースで戦かえるとばかり思っていた全日本は、この西ドイツの激しい攻撃に、落ち着きを失い、8分関のサイドハンドショットで同点（10－10）としたのも束の間、9分クルースピース、11分スペングラーにゴールされ、12分山本が右サイドから体勢を崩しながらシュートを決めるという美技も、すぐにバルッケ、エーレットの速攻を浴び吹っとんだ。
　しかも、この山本の得点後、来日以来初めてみせたといってよい西ドイツディフェンスの出足に、攻撃の糸口をつかめず、17分蒲生が一本決めただけ、約10分間ノーゴールに、おさえこまれてしまった。やたらに中央攻撃にこだわりかつての突破口・サイド攻撃を一つも見せなかった策のなさも拙い。
　○…こうなっては、完全に西ドイツのペース。
　バルッケ、エーレット、クルースピースら〝世界の攻撃陣〟が、スペングラーの好リードから矢次早にゴールを奪い、26分には、このシリーズ、配球役にまわっていたブンダーリッヒが、鷲づかみのボールを、GK大畑の肩口に強襲させるなどして圧倒。なんとか5点差以内にもちこもうとする全日本を突き放した。
　全日本の技術的な課題については、他のかたが書かれるだろうが、記者なりの印象をまとめれば、①リード後、持ちこたえられぬディフェンスのもろさ、②勝負どころでの凡ミス、特にノーマークシュートの失敗、③チェンジ・オブ・ペースの未消化、④同一選手の出場時間が長いこと、⑤サイド攻撃の不足などである。
　竹野監督は、今シリーズの具体的なテーマとして、スペングラーのポスト、エーレットのサイド攻撃を封じることをあげ、それは、一応の成果をあげたが、左腕クルースピースの強引なセット内の動きには、なす術がなく終っている。
　これで、ブンダーリッヒが、アタッカーとして、攻撃ラインに積極的参加していたら、戦況は、さらに苦しくなっただろうし、守りにブラントが欠け（中国で負傷）ていたのも、全日本にとってラッキーだった。
　竹野監督は「モスクワで、西ドイツに一あわ吹かせる手ごたえをつかんだ」と強気に語ったが、一方、ステンツエル監督は「スペイン、アフリカ代表、日本はいい勝負」とハナからBクラス扱い。
　全日本がメダルを狙うには、なにが必要かという質問には「毎シーズン必ずヨーロッパへ出かけて来なさい」とだけ語った。

西ドイツ紙記者に聞く

　西ドイツは、さすがに世界の王者、ヨーロッパの人気スポーツらしくテレビ班を含む7人の特派員がチームに同行してきた。
　そのうちの一人「フランクフルター・アルゲマイネ」紙のR・ヘーゲン記者に、全日本などの印象を聞いてみた。（文責・編集部）

◇

　日本のハンドボールは、これまでも何回か見ており、小柄だがスピードのあることを知っていた。
　今回の3試合でも、その特色が印象づけられたが、やはり、それだけでは、ヨーロッパの壁を打破することはできない。
　蒲生のような、大型のオールラウンドタイプを、もう二～三人揃える必要があり、そうすれば、もっと日本のハンドボールは魅力的なものになろう。
　2試合のスコアは、現在の西ドイツのコンディションからすれば順当だが、デッカルムを欠いた穴が、あと一年で埋まるかどうか心配だ。このままだと、ソ連や東ドイツが優位に立とう。
　大同戦でのできごとは、言葉の通じないがために起きたことだ。
　各地で、日本と中国の比較をたずねられたが、現在はともかく、将来は、身体の大きい中国が、日本を追いこす可能性がある。
　日本は、想像していたとおりの近代的な国で、選手は喜んでいたようだが、一つだけ疑問に思ったのは、京都で、なぜ観衆が少なかったかだ。

日本協会専門委員会だより

財団募金委

昨年日本協会の理事会および代議員会において、日本ハンドボール協会を発展的に解消し財団法人日本ハンドボール協会を設立すること、ならびにそのための募金要綱が決定されました。昭和五三年度から三年計画で基本財産五、〇〇〇万円を集め、うち三、〇〇〇万円に達したら設立許可の申請をする、というものです。

昨年一〇月末には、日本ハンドボールリーグのオーナーにも集まっていただき、斎藤会長から協力の要請をいたしました。各オーナーとも積極的に協力を約し、会長が社長を務める新日鉄はハンドボールはローカルチームしかもっていないので社内を説得に苦労したが財団の基本財産として三百万円、林副会長の大同特殊鋼もこれに合わせて三百万円を協力することになっていたので、各オーナーとも日本リーグ各社の平均が二百万円になるように社内を説得して貰うことになりました。

現在の日本協会の構成員である地方協会・加盟団体は、団体の規模に拘らず、三年間に三〇万円を拠出することになっています。

個人では、日本協会の役員は、代議員五万円、理事三万円（以上在任期間一年につき上記額の三分の一）、顧問・参与三万円以上、会長・副会長は林副会長に一任されています。地方協会・加盟団体の役員協力金として一団体五万円をお願いしてあります。

全国に散っている大学ＯＢ、高校ＯＢについては、学連、高体連を通じて呼びかけることとされています。

その他スポーツ関係業者にも協力を要請することとされ、具体的な金額などについてはいずれ理事長から直接各社にお願いすることにいたしました。

八月二〇日現在の募金状況は既に大同特殊鋼三百万円を初め、湧永薬品、本田技研、日新製鋼、日本ビクター、ブラザー工業、大崎電気、日立栃木から各二百万円ずつ入金しています。新日鉄をはじめ社内で内定していただいているのが数社で八百万円位あり、日本リーグ関係だけで二千五百万円の募金額に達するのは間近です。これにボチボチ入り始めている地方協会加盟団体の昭和53・54年度の負担額約一千万円の半分だけでも入金すれば、文部省の最低の許可基準額三千万円に達しますので、業者関係の寄付を考慮すれば、三年目の昭和五五年度早々には許可申請にこぎつけられるでしょう。

技　術

前回6月号で技術委員会の方策を簡単に述べましたので、今回は具体的な問題点を挙げ、技術委員会としての対応策を述べることにします。

一、各種大会に於いて、規則の変更や解釈伝達等に対して指導者や競技者が知らない事があったり、理解できていない場合があります例えば全国大会で、サイドラインからボールが半分以上出たのでスローインとか、サイドラインを踏んだからラインクロスだといったり、ゲーム中のスローオフのときサイドライン近くでボールを持ち早く笛を吹かないかという顔をしている。またベンチに規定以上の人数が入っていたり、退場者の席に監督が座っていて退場選手がウロウロしているのを見かける。

これらのことはルールの伝達が審判とくらべ、非常に遅れていると感じます。したがって審判委員会の協力を得て対策をたて、早急に実施したい。

二、ハンドボールの競技人口は、毎年増加をしております。これに比例して年代層も年を追う毎に拡大しています。例えば小学生・中学生・ママさんのクラスの勝敗より楽しく行なうハンドボールと、高校・大学の教育の一環としての要素のあるハンドボール・社会人（クラブ）の余暇を利用してのハンドボール・実業団・自衛隊のような企業及び隊を代表したものや、指導者の養成やハンドボール指導の研修の要素のあるもの、これらの競技者にあったルールと競技技術の検討が必要である。特に傷害のないようにどうしたら良いのかを検討しなければならない。

以上の点は技術委員会として解決すべき問題のほんの一部分に過ぎませんが、委員会の連絡を密にして深く検討を加え、各種の問題解決にあたる。

また競技部の中に技術委員会と審判委員会と設置されている事を考慮し、現場でよくみうけられる指導者・競技者対審判員との競技中発生している問題点をなくすべく審判委員会との接点を持って処理をする。この事により、トラブルのないクリーンな試合、大会が行なわれるようになる。

三、全日本総合選手選の改組という問題が、〈競技部〉に附されており、種々検討をつづけているが、単に、この大会のみを改組するのではなく、国体などのからみも無視できない。

とりあえず、11月の全国代議員会までに、男女別開催、競技法式などをまとめたい。

日本協会専門委員会だより

企画

7月の西ドイツ・シリーズ、特に東京大会の盛況は、企画部の考える〝将来構想〟の実現を勇気づけるものである。

一、この構想の一つは、まだ、アドバルーンを打ちあげるまでにもいかぬものだが、「ハンドボール協会財団法人設立記念・ジャパンカップ大会」の企画、実施である。

ハンドボール界の一大飛躍をめざす財団法人設立年に、モスクワオリンピックの上位二チームと、一九八二年の世界選手権大会開催国の西ドイツチーム、アジアから中国・韓国チームを招へいして、六カ国によるジャパンカップを開こうとするものである。

また、アドバルーンの域を出ないが、都協会をはじめ、全国関係者の、全面的な協力と、主催者側のひたむきな努力があれば、必ず実現するものと確信している。

二、全国小学校ハンドボール大会、パパ・ママ・ハンドボール大会を一九八二年に開催しよう。

ハンドボール普及と発展の為には、早急に、小学校対策に着手する必要がある。

現在、小学校体育教材にポートボールがあるが、ほとんどの指導者は、バスケットボールへの移行教材と受け取っている。

しかし、ポートボールの技術はハンドボールへの転位が最も早く、しかもハンドボールは、小学生上学年に対しての教材としては最適である。したがって、小学校の先生方に一日でも早く、このことについての意識改革をさせなくてはならない。

ところで、本年度から文部省指導のもとに中学校大会が開かれ、ハンドボールが数少ない種目の中に入っているし、近い将来、小学校大会へと移行してくるに違いない。

したがって、他のスポーツ界に先立ってこれをすみやかに、しかも、シビアな計画のもとに実施してゆくならば、この部門でのイニシアチブが取れる。

更に、この大会と併行して、パパ・ママ混成チームの大会が開催実現するならば、オリジナルな大会になる筈である。

こうした課題の実現は、企画部のみが先行するだけではなく、普及指導部あたりとの連けいが不可欠となってくる。

勿論、競技方法も、技術部とのタイアップで、それぞれ、独自なものをつくり実施する必要がある

北川　勇喜

普及指導

第6回を迎えた今年の研修会は会場を筑波大学に移し行なわれることになった。これは、会場を固定せずに全国を巡回すればよいという意向や、従来までの会場であるオリンピックセンターでは、実技研修の場所が狭く十分な活動が出来ないという反省に基いてのものである。

さて、この全国教員養成大学はハンドボールの普及のためには、指導者の養成が急務であるとして生み出されたものである。全国には、国立・公立・私立の大学を合わせると428大学ある。このうち、国立大学(88)には、教員養成課程を置いている大学がほとんどである。その他にも体育学部を持つ大学や、教員養成コースを持つ大学も少なくない。これらの学生にハンドボールの持つ楽しさや、教育的効果を理解して教職に就いてもらえれば、どれほどのハンドボールの発展につながるものかと思う中・高の学習指導要領にハンドボールが入っていながら、まだ全国的規模からみれば、十分行なわれていないのが現状である。これも指導者の不足にその原因がある。

教員養成の学生だけが将来のハンドボール指導者になるわけではないが、競技人口を支えているのは学校のクラブ活動であり、広く国民にハンドボールの楽しさを教えるのは、体育の授業であることと考えた時、ハンドボールを理解した教員の価値はあまりにも大きい。体育を受け持つ教員だけでなく他教科の教員の愛好者も育てて、学校教育の中での発展をもっとはかるべきであろうと思われる。

しかし、大学に於てもハンドボール指導者が不足しているために、ハンドボールを広く深く身を持って理解し、社会に出て行くという状態が整っているというわけではない。

ハンドボールを愛好し、溢れんばかりの情熱を持った指導者を求めるには、全国的にその環境が不足していることは、否めないことである。その意味において、この研修会の持つ価値は大へん大きいものである。年を終るごとに充実はしてきているものの整備すべき問題点もいくつかでてきているカリキュラム、とその指導方法の問題も大きい。又会場など運営の問題もあるし、今年も教育系の全国大会と開催期日が、ぶつかっている。今後ともこれらの問題を整理してよりよい教員養成大学研修会に育てていく覚悟である。

全日本自衛隊連盟

今年で全日本自衛隊ハンドボール連盟も一〇年を迎え、全日本自衛隊ハンドボール選手権大会は第一一回大会となる。昨年の第一〇回大会の内容を述べてみると、参加チームは三〇チームを数え、北は北海道から南は鹿児島までの広きにわたり、陸・海・空の自衛隊チームが参加している。大会は、男子選手権の部、女子の部、男子少年の部、男子壮年(三五才以上)の部門で試合を行なった。各部門について述べると、男子選手権の部の優勝チームを全日本総合選手権大会に推せんし、二位チームを全日本実業団トーナメントに推せんした。女子の部は、婦人自衛官のチームで事務系と看護婦のチームが参加した。少年の部は、陸・海・空少年自衛官（十五才から十九才）対象の部門で、男子壮年の部は三十五才以上の者で試合を行ない、第一〇回大会の新設部門である。昭和五四年一〇月に東京駒沢で行なわれる第一一回大会の男子選手権の部は日本協会A登録、全日本実業団連盟A・B・C登録のチームで行なう。実連に登録チームは昭和五三年度二〇チーム昭和五四年度は二七チームに増加した。

思い起せば昭和四二年当時、日本ハンドボール協会に登録したチームは、私が監督をしていた勝田一チームだけだった。私は全日本実業団連盟の理事会で全自衛隊大会開催の協力を要請し、内部では陸海空の自衛隊チームを勝田に呼び寄せハンドボールの基礎を教えた。記念すべき第一回全日本自衛隊選手権大会は主催日本協会、主管全日本実業団連盟により昭和四四年七月東京駒沢オリンピック公園で開催され参加チームは一一チームであった。つづいて全日本自衛隊ハンドボール連盟が昭和四五年二月に会長森川竹雄（自衛隊体育学校長）、理事長富永劭で結成された。その後会長が江藤淳雄（防衛庁人事教育局長）に交代した。

大会の参加チームは逐次増加し現在までに参加したことのあるチームは沖縄からの参加を含め七四（陸四九、海二〇、空五）チームにのぼる。

全日本実業団選手権大会には自衛隊チームが原則として二チームの出場が認められ今までに一〇チームが参加し、隊外試合の足がかりとなっている。この大会に参加することは技術の向上に大きく貢献している。特に過去六回行なわれた自衛隊施設利用の実業団ジュニア合宿は自衛隊チームにとって日本協会強化部、普及部の指導を受けるチャンスとなりチーム力の強化に役立っている。国体には今まで自衛隊チームは四個チーム参加しており個人としてクラブチーム選抜チームより参加している者も多数いる。また日本リーグには昭和五四年あらゆる種目のトップを切って自衛隊からハンドボールで勝田が参加した。今後実力がつき次第二・三チームを参加させたいし、全日本総合には毎年一チームが参加しているが早く白星を上げたい。国際試合では第七回大会（昭和五〇年）の時自衛隊選抜チームが韓国代表円光大ＯＢと対戦一八対一六で勝ち、昭和五二年には勝田が単独で韓国選抜と対戦している。今後とも積極的に外国チームと対戦し、頂点強化の実を上げたい。

今後の大きな目標は、自衛隊で約二千チームあるのを出来るだけ全日本自衛隊大会又は都道府県大会に引き出すことであり、自衛官の中からオリンピック選手を出すことである。

富永　劭

日本協会加盟団体リポート

全日本学生連盟

全日本学連は、本年度より東日本学生選手権をスタートさせることになりました。

第一回大会は、北海道学生ハンドボール連盟の主管により、開催の運びとなりましたことを深く感謝致します。

第一回大会は、男子が北海道、札幌市内の中島体育館及び真駒内屋内競技場を使用し、7ブロック・28チームで争うことになった。

まず各ブロックの4チームが8月29日から31日の3日間で予選リーグを行ない、各ブロックの勝者が9月1・2日の決勝トーナメントに進めるようにした。

予選リーグでは、各ブロックに関東学生一部校が名をつらねているので、決勝トーナメントへは、これら関東リーグ一部校の進出が予想される。

当初は男・女とも北海道で大会を行なう予定でしたが、女子のエントリーチームが、関連学連4チーム（東女・日体・日女・筑波）だけだったために、女子の試合は8月25・26日の両日、日本体育大学体育館で開催されることに変更された。

男子予選リーグ

北海道東海大学

Dブロック
- 埼玉大学
- 東北学院大学
- 北海学園大学
- 法政大学

Eブロック
- 早稲田大学
- 函館大学
- 北海道工業大学
- 東海大学

Fブロック
- 慶応義塾大学
- 駒沢大学

Aブロック
- 仙台大学
- 順天堂大学
- 小樽商科大学
- 日本体育大学

Bブロック
- 日本大学
- 横浜商科大学
- 横浜国立大学
- 北見工業大学

Cブロック
- 明治大学
- 筑波大学
- 室蘭工業大学

北海道大学
大東文化大学

Gブロック
- 国士館大学
- 金沢工業大学
- 創価大学
- 北星学園大学

▼女子トーナメント

（8月25，26日）

- 日東京女子体育大学
- 筑波大学
- 日本女子体育大学
- 日本体育大学

DCS
ダイワ キャッシュ サービスカード
大和銀行
1051-283704
こんなとき便利な
ダイワキャッシュカード。

全日本総合選手権（12月・東京）の大綱決まる

日本協会は、6、7月の両常務理事会で、今年度の第31回全日本総合選手権（12月12～16日・東京体育館）の実施要項について協議次のように決めた。

まず、出場チーム数は、男子24女子16チームで、前回と変わらず男女とも、トーナメント法式（ナックアウトシステム）を採用してナショナル・チャンピオンシップを争う。

出場チームの内訳は、日本リーグ2部の発足で、注目が集っていたが、すべて前回同ようでまとまった。

男子24は、日本リーグ1部から6、同2部から2とし、1部に棄権が出た場合は2部から補充する

加盟団体代表は、全日本教職員連盟、全日本実業団連盟各3、全日本学生連盟5、全日本自衛隊連盟1とされた。

このほか、社会人代表3、開催地（東京協会推せん）1で、社会人代表は、東部地区（北海道、東北、関東）、中部地区（北信越、東海、近畿）、西部地区（中国、四国、九州）の3地域に分けられ各ブロックのクラブ選手権の勝者によって代表権を争う。

女子16は、日本リーグが8のまま据え置かれたため、2部チームは、別ルートからしか出場権を得られない。

加盟団体代表は全日本実連、全日本学連各3、このほか社会人代表、開催地（東京協会推せん）各1で、社会人代表の選考は、改めて常務理事会で検討する。

なお、大会要綱は、10月中旬に発表される予定。

中国選出理事交代　中国選出の日本協会理事は、このほど柳井文治氏（山口）から、平田幸男氏（広島）に代わった。

柳井氏の、強化部女子強化委員長のポストは、そのまま。

全日本コーチ新任　日本協会強化部はこのほど、ナショナル・コーチ群に、新たに樫塚正一氏（武庫川女大監督、日体大出）高野亮氏（東女体大監督、順天堂大出）を加えた。

これで、コーチ群の総勢は、12人となった。

早川コーチ留学へ　日本体協は、今年度から各競技団体のコーチを海外に留学させる事業を文部省とのタイアップで始めることになったが、7月23日、第1回派遣者12名の氏名を発表、日本協会強化部コーチ・早川清孝氏も含まれている。

早川コーチは、今秋10月から来年9月まで、西ドイツのケルン体育大に留学の予定。

（同コーチ略歴）32才、福岡県生まれ、日体大出、京都市立芸大勤務、大阪イーグルス所属。ミュンヘン・オリンピック代表選手。

パルパル エブリボディ。

5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル ——— 標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル・L ——— 標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ ——— 標準現金価格 ¥75,000

しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン ——— 標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう HONDA

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。

わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

2日から神戸でインター・ハイ

第30回全日本高校選手権（インター・ハイスクール）は国際都市神戸市において、8月2日より8月7日の6日間全国都道府県代表男女48代表96チームの精鋭を迎えて熱戦が展開されることになった。

男子の古豪は新居浜工の25回出場で、女子は涌谷の26回出場である。女子涌谷の26回は男女合わせての最多出場である。初出場校は男子6校・女子8校の計14校となった。また、男子は春の選抜出場校全チームが今大会に出場しており、女子も北海道と愛知が変っているだけである。

全国各地の格差がなくなってきた今日、予想は非常にむつかしいが組合せブロック別に見てみた。

▼男子Aゾーン

前年優勝の久留米工、選抜優勝の中大附が同席し、しかも2回戦で久留米工・中大附の激突が予想されている。ダークホースは中京と修道。

▽Bゾーン

マリスト学園、四日市工に対して、来年国体で強化されている石橋が先大会のようなダークホース振りを発揮すると恐しい存在となろう。

▽Cゾーン

国体2年連続優勝したがインターハイでは3位と不本意な氷見としてはどうしても勝ちたいところ小粒ながら切れのよいパスワークで今年も頑張ることであろう。

しかし、北佐久農・新居浜工・大曲農・日川などがひかえており苦戦はさけられないであろう。

▽Dゾーン

このゾーンは強豪・ダークホースが入り乱れての乱戦模様である

東北を制した聖光学院・関東2位の前橋商・同3位の清水・国体で強化した小林工、夏に強い岩国工など目白押しの感がある。

▼女子Aゾーン

筆頭は前年優勝・選抜優勝の小松市女に対してまとまりのある栃木女が胸をかりるというところ。

▽Bゾーン

選抜出場の新居浜市商と徳山・東北の王者秋田和洋・関東制覇の藤村女子・地元明石に日川が続き全く予想つけ難しの感がある。

▽Cゾーン

選抜3チーム、暁・涌谷・夙川学院に対し明倫・大分東・麻生がどう戦うかであろう。

▽Cゾーン

選抜出場の昭和学院と熊本女商がシードされた形になっており、各々強敵を控えている。

▼男女優勝戦線

最後に、思い切って優勝戦線に焦点をあててみよう。

まず、男子の準々決勝は、久留米工大付・中大付×中京、マリスト・石橋×四日市工、氷見×新居浜工、聖光学院×岩国工・小林工あたりとみたい。

このうち、久留米工大付、中大付、氷見の三校が、優勝最短距離とみられ、波乱なく進めば、久留米工大付・中大付×氷見の決勝だろう。

一にも二にも、今大会の焦点は2回戦に予想される久留米工大付×中大付戦だ。

一方、女子は、熊本女商が栄冠にもっとも近いといえる。決勝の相手は連勝を狙う小松市女とみるのが無難だが、両者対決となれば今度こそ熊本か。

熊本以外の進出となれば、小松有利としたい。

ダークホースは昭和学院、栃木女の関東勢、地元・夙川学院、伝統の徳山、大分東。

今年の大会は炎天下での一会場ではなく、体育館5会場で行なわれるので、他チームを観察する暇がなく、各チームが苦心することであろう。

第30回全日本高校選手権組み合せ

◇……男　子……◇

- 久留米工大附（福岡）
- 函館有斗（北海道）
- 中大附（東京）
- 高志（福井）
- 青森商（青森）
- 八幡工（滋賀）
- 修道（広島）
- 横浜商工（神奈川）
- 乙訓（京都）
- 佐世保北（長崎）
- 盛岡商（岩手）
- 中京（愛知）
- マリスト（熊本）
- 境港工（鳥取）
- 池田（徳島）
- 石橋（栃木）
- 柏崎（新潟）
- 明石（兵庫）
- 川口北（埼玉）
- 添上（奈良）
- 幡多農（高知）
- 鹿児島工（鹿児島）
- 古川（宮城）
- 四日市工（三重）

- 氷見（富山）
- 北佐久農（長野）
- 松江南（島根）
- 大分電波（大分）
- 大曲農（秋田）
- 日川（山梨）
- 静岡農（静岡）
- 佐賀農（佐賀）
- 土浦一（茨城）
- 高松工芸（香川）
- 桃山学院（大阪）
- 新居浜工（愛媛）
- 清水（千葉）
- 小松工（石川）
- 武庫工（兵庫）
- 首里（沖縄）
- 倉敷商（岡山）
- 聖光学院（福島）
- 県岐阜商（岐阜）
- 小林工（宮崎）
- 御坊商工（和歌山）
- 前橋商（群馬）
- 新庄工（山形）
- 岩国工（山口）

◇……女　子……◇

- 小松市女（石川）
- 彦根南（滋賀）
- 川口北（埼玉）
- 富田好（岐阜）
- 神埼農（佐賀）
- 盛岡二（岩手）
- 青森西（青森）
- 松江市女（島根）
- 春日丘（大阪）
- 前原（沖縄）
- 高岡日大（富山）
- 栃木女（栃木）
- 倉敷天城（岡山）
- 国分実業（鹿児島）
- 秋田和洋（秋田）
- 市邨学園（愛知）
- 藤村女（東京）
- 新居浜商（愛媛）
- 徳山（山口）
- 明石（兵庫）
- 新潟江南（新潟）
- 筑紫女学園（福岡）
- 日川（山梨）
- 米沢女（山形）

- 石川（福島）
- 大分東（大分）
- 釧路商（北海道）
- 明倫（神奈川）
- 高松南（香川）
- 暁（三重）
- 涌谷（宮城）
- 蘇生（茨城）
- 仁愛女（福井）
- 島原農（長崎）
- 西京商（京都）
- 夙川学院（兵庫）
- 昭和学院（千葉）
- 小林商（宮崎）
- 米子南商（鳥取）
- 大正（高知）
- 郡山（奈良）
- 二俣（静岡）
- 池田（徳島）
- 新宮（和歌山）
- 吉井（群馬）
- 佐久（長野）
- 山陽女（広島）
- 熊本女商（熊本）

全日本教職員は8日から栃木で

第22回（女子第7回）全日本教職員選手権大会は、8月8日から12日まで、栃木県、国学院大栃木高校グランドで行われる。

男子は31都道府県から37チームが参加、昨年より少なくなっているが少数精鋭として新たな方向をうかがうことができる。

優勝争いは、何といっても日本リーグ加盟の大阪イーグルスが一番手、昨年2位の茨城コンドルスがどこまで迫いあげるか興味深い。このほか昨年4位のスワロー兵庫、熊本教員、宮崎教員、千葉教員なども意欲は充分である。ホームチームの栃の葉クラブも一回戦三重教員と顔を合わせるのは興味深い。

9連勝を目指す大阪イーグルスは、日本リーグでも前期2勝3敗（本誌21～23頁参照）の星を残すほどの強豪ぶりで、まず、教職員チームでは歯が立つまい。

しかし、いつまでも、それではこの大会を開く意味も薄まるし、なんとか一矢をというファイトを各チームに期待したい。

その希望は、前述の各チームにかかるわけだが、とりわけ、来年地元国体を控える栃の葉ク（栃木）今秋、国体を迎える宮崎には、善戦のチャンスがあろう。

また、かつて再三、イーグルスを苦しめたスワロー兵庫も、優秀な新戦力を加えており、闘志満々と伝えられる。

試合運びの巧い茨城コンドルズは、準決勝に予想される栃の葉ク戦が一つのヤマ。

このほか、往年の上位チーム、埼玉、千葉、愛知らが一発を狙ってくるようだと面白くなろう。

大阪鵬鷺会というのは、イーグルスの若手で、2回戦のコンドルズ戦はもつれそう。

7年目の女子は8チームが参加するが、大阪教員（女子）は昨年より精鋭した一チームにしぼり連勝の記録をのばそうと練習している惑星は練習量の多い地元・栃の葉ク（栃木）。

なお昨年2位の長崎教員とあと一歩で大阪教員を追いこんだ武蔵野クラブ（東京）がエントリーしなかったのは残念である。

全日本教職員選手権

組　み　合　せ

◇……男　子……◇

大阪イーグルス
神奈川教員団
岡山教員
佐賀教員
福島教員
香川教員
東京教員
群馬教員
新潟教員
愛知教員A
千葉教員
大阪教員クA
岩手教員ク
山口県教員団B
A・T・F（愛知）
埼玉教員ク
島根教員
福井教員
スワロー兵庫
熊本教員
滋賀教員
山梨教員
富山教員
大阪教員クB
栃の葉ク（栃木）
三重教員
奈良教員
静岡県教員団
山口県教員団A
宮崎教員
岐阜教員
千葉教職員ク
京都教員
愛知教員B
長野教員
鵬鷺会（大阪）
茨城コンドルス

◇……女　子……◇

大阪教員女子
白小鳩（埼玉）
神奈川教員団
風見鶏ク（兵庫）
桜球会（富山）
茨城教員
愛知教員
栃の葉女子

第6回　全国高専選手権

8月14、15の両日、大阪市中央体育館に、全国の代表13校が参加してトーナメントで行われる。

本誌〆切り直前、後掲のように組み合せが決まった。

高専は、資料となる大会が少なく、展望は難しいのだが、前評判の高いのは、前年1位の岐阜と、第3回の勝者・一関（岩手）あたり。

これを追うのが、桐蔭（神奈川）長岡（新潟）の関東信越勢、鹿児島、津山（岡山）などのようで、津山のチーム力も、かなり買われている。

○…組み合せ…○

▽1回戦　①和歌山×米子、②富山×桐蔭学園、③鹿児島×舞鶴、④沼津×津山、⑤一関×長岡（以上8月14日午前）
▽2回戦　イ・岐阜×①の勝者、ロ・②×③の勝者、ハ・大阪府立×④の勝者、ニ・宇部×⑤の勝者（以上8月14日午後）
▽準決勝　イ×ロ、ハ×ニ（以上8月15日）
▽決勝（8月15日正午）

日本リーグ

大同、5戦全勝で折り返す

女子はビクター、ジャスコが並走

第4回日本リーグ前期は、7月22日の広島大会で全日程を終えた。

男子は、7月に入ってからも、大同、湧永二強の好調がつづき、予想どおり、最終日、無キズ同士で対戦、一点を争う好ゲームから大同が、後半、逆転に成功、ホームコートの利を活かし食い下る湧永を振り切って今シーズン5連勝、首位でUターンを決めた。

3位以下の順位争いも激しさを増し、本田技、大阪イーグルスが勝ち点4、日新、三陽が同2と並んで、予断を許さない。

一方、女子は、全日程28試合のうち13試合が終わり、ビクター、ジャスコが3戦全勝でトップに立ちプラザーが2勝1分で3位についている。

後期は、9月15日に四日市市で開幕、10月28日まで5週にわたって激戦をくりひろげる。

第2週

◆第3日 ▽7月1日・浦和市民体育館・観客一、二〇〇

・女子

大崎電気 13（5―5 8―5）10 立石電気

試合開始より1点を争うシーソーゲームで、観衆を湧かせたが、後半に入って、大崎は大場のディフェンスにあたるシュートが得点につながるなど、ラッキーな得点にもめぐまれ、点差をつけた。

また、この試合、立石のペナルティースロー4本のうち3本を阻止した大崎のゴールキーパー中島の健闘は、大きく称えて良い。

・男子

大同特殊鋼 42（21―5 21―14）19 三陽商会

試合開始より大同の速攻に始まり、速攻で終った感じのゲームであった。三陽の大熊が1人でシュートし、チームコンビネーションが感じられなかった。大同のチーム得点は、リーグのタイ記録である。

▽同・市川市営体育館、観客八〇〇

・女子

日本ビクター 18（10―3 8―5）8 大和銀行

ビクターの順当勝ち。ビクターはスピードとパワーで大和を終始圧倒、加藤、穂積、小島らがそつなく得点を加算、大和もよく反撃したが、ゴール前ビクターの厚い壁に効果的なシュートを封じられた。

・男子

本田技研鈴鹿 24（10―9 14―8）17 日新製鋼

後半なかばまで、1点を争う好ゲームを展開したが、後半なかばすぎより本田はジリジリと差を広げ、追いすがる日新をふりきった。

本田は佐藤、田上らベテランが活躍し、とくに佐藤は得点をマーク、守ってもGK柴田がよく日新の攻撃を喰い止めた。

第3週

◆第1日▽7月8日・東京体育館 観客 一、〇〇〇

・女子

日立栃木 23（7―5 16―6）11 大崎電気

両チーム互角の力とみられていたが、前半8分過ぎ、日立は大崎のミスをさそって5得点を決めるなど優位にたった。大崎は日立の堅いディフェンスに攻めあぐねていたが、17分過ぎから徐々に追い上げ2点差とせまった。後半に入り大崎の反撃が期待されたが、4分過ぎ日立の吉田が立てつづけに連続得点を決めるなど、日立の一方的な試合となった。

日立GK斉藤の好守が光った。

・男子

湧永薬品 26（14―6 12―9）15 三陽商会

総合力に優る湧永薬品が終始三陽を圧倒して一方的に攻め勝った。前半、湧永は穂積のポストプーからのシュートが決り、5分までに5連続得点を決めて優位にたった。

以後も津川、生駒、松本のシュートで大きくひきはなした。後半に入って三陽はエース関がようやくシュートが決まり出し、15分まで唯一の試合の盛り上りを見せたが、力及ばず湧永の前に敗れた。三陽は大熊の負傷退場がいたかった。

▽同 佐久市総合体育館、観客六百。

・女子

ジャスコ 10（5―2 5―4）6 北国銀行

立ち上がり両チーム共、コンディショニングの失敗か、ミスが多く日本リーグらしからぬ試合ぶり9分間パス・キャッチ・シュートミスの連続で、得点ならず。

ようやくジャスコが9分30秒、河田のペナルティで先取点、これに対し、北国は再三のチャンスをシュートミスで逃し、18分木戸のPTで得点をあげたものの、ミスが響いた。

後半両チーム1点を争う好ゲーム、ジャスコのエース松下が好リード、好シュートをすれば、北国のチ歩がフリーシュート、PT4点をあげる活躍でゲームを盛り上げた。

・男子

大同特殊鋼 33（14―4 19―6）10 大阪イーグルス

今期チーム力が充実している大同特殊鋼が、新人とのコンビネーションが今一つ嚙み合わないイーグルスを圧勝した。

大同は攻撃において、中井・花輪を中心とした速攻、コンビネーションプレーが、野田、藤中時代のパワフルな傾向とは変り、ファンタスティックなコンビネーションプレーが随所に展開され魅力的だった。

ディフェンスも熟練味を増したGK柳川兄の好リードによる攻撃の狙いを先取する積極的なディフェンスを敷かれては、ベテランと新人のバランスが悪いイーグルスは、なすすべがなかった。

日本のエース蒲生が、対西独3

連戦による疲労を克服して10得点をあげた精神力は、見るものの心を打った。

第4週

◆第1日▽7月14日・島根県立体育館　観客　一、三〇〇

・女子

プラザー工業　8（3－4、5－4）8　大和銀行

プラザーの攻撃に冴えが見られず、シュートミスが目立った。大和はゆっくりしたペースからエリア前の鋭い切り込み、スカイプレーをまじえ、有利な展開で前半を終った。

男子前期成績表

	大同	湧永	本田	日新	イーグ	三陽	勝数	敗数	分け数	勝ち点	得点	失点
大同特殊鋼	＼	○	○	○	○	○	5	0	0	10	144	75
湧永薬品	×	＼	○	○	○	○	4	1	0	8	122	78
本田技研鈴鹿	×	×	＼	○	×	○	2	3	0	4	102	107
日新製鋼	×	×	×	＼	○	×	1	4	0	2	95	117
大阪イーグルス	×	×	○	×	＼	○	2	3	0	4	94	125
三陽商会	×	×	×	○	×	＼	1	4	0	2	87	142

個人得点

① 蒲生（大同）48<21>　　<　>内はP.T
② 佐藤（本田）32<11>
③ 田上（〃）27<7>
④ 柳川（大同）22

プラザーは、大和の大健闘の前にあわや敗戦のゲームかと思われたが、終了5分前同点に追いつき辛くも引き分けにもち込んだ。

大和は、今一息の所で金星を失った。大和は荒っぽい試合運びながら、特徴のある試合運びはこれからのゲームに期待が持てそうである。

・男子

湧永薬品　23（13－7、10－10）17　日新製鋼

湧永は出足良く、津川、穂積の連続得点で主導権を握り、パワーと脚力を生かし、早い動きを見せた。一方の日新も脇若を中心に、ミドルシュートとポストプレーで加点したが、総合力に勝る湧永に追いあげムードを打ちくだかれた。

昨年大活躍をした日新製鋼だが今期は元気なく、今だに勝ち星がないが、今後の健闘を期待したいものである。

▽同、福井県営体育館、観客一、一〇〇

・女子

立石電機　11（6－4、5－3）7　北国銀行

立石電機が立ち上りから終始北国銀行をリードし、あぶなげのないゲーム展開で1勝目を得た。

この試合4得点をあげた立石電機の紀野の活躍が光っていたが、北銀・木戸の4ゴールも忘れてはならない。

しかし、北銀攻撃陣は、立石ディフェンスを切り崩すだけの組織力がなく、それが効果的シュートを生めないことにつながった。

・男子

大阪イーグルス　22（10－7、12－9）16　本田技研鈴鹿

イーグルスはスピードで終始本田技研を圧倒した。

本田技研も後半一気に追いあげを見せたが、田上・佐藤などに効果的なシュートがみられなかったまた守っても名キーパー柴田がイーグルスのフェイントぎみシュートに眩惑されたせいか、今一つの動きだった。

本田技研は、最後までイーグルスのペースを崩すことができなかった。この試合イーグルスの高橋大西・辻本が各5得点をあげる活躍をしたのが目立った。

◆第2日▽7月15日・石川県立体育館　観客　一、五〇〇

・男子

前日、本田技研を敗ったイーグルスはその勢いに乗って、三陽を圧倒した。

三陽もよく反撃したが、大熊の欠場により攻防のバランスがくずれ、しかもエースの関が完全にマークされて有效なシュートチャンスが得られなかった。

イーグルスのスピードとキーパー本田の好守が目立つ一戦だった。

大阪イーグルス　30（11－7、19－12）19　三陽商会

・女子

日本ビクター　14（6－2、8－7）9　北国銀行

前半両チーム共に、積極的な攻撃を見せたが、北国銀行は主力木戸が怪我により欠場したため最後の詰めがあまく、前半で大きく点差をつけられてしまった。

後半、北国銀行は巻き返しをねらったが、日本ビクターの前に屈してしまった。

▽同・四日市体育館、観客　一、二〇〇

・女子

ジャスコ　13（3－5、10－5）10　大崎電気

前半、ジャスコの攻撃のリズムが乱れ、思うように得点できず、大崎に2点のリードを許してしまった。

後半に入ってジャスコの動きがリズミカルになったのに対し、大崎電気の動きが悪くなってしまった。ジャスコはこの後半、本来の姿に戻り、着々と加点してゆき、大崎必死の追い込みを振り切って逆転勝ちした。

・男子

大同特殊鋼　19（8－12、11－5）17　本田技研鈴鹿

前半、本田技研佐藤が6得点を決め、守っても大同の動きを封じて理想的なゲーム展開をした。後

女子成績表　<前期終了まで>

	ビクタ	ジャス	ブラザ	立石	大崎	日立	北国	大和	勝数	敗数	分け数	勝ち点	得点	失点
日本ビクター	＼					○	○	○	3			6	53	35
ジャスコ		＼			○		○	○	3			6	44	26
プラザー工業			＼			○	○	△	2		1	5	41	24
立石電気				＼	×		○	○	2	1		4	33	27
大崎電気		×		○	＼	×			1	2		2	34	46
日立栃木	×		×		○	＼			1	2		2	51	52
北国録行	×	×	×	×			＼			4		0	28	48
大和銀行	×	×	△	×				＼		3	1	1	33	59

個人得点　① 小島（日ビ）18　③ 中川（プラ）13
② 松下（ジャ）15　④ 大輪（日立）12

半本田技研の活躍に期待されたが大同が自力を発揮し、逆転勝ちをした。

本田技研にとっては、おしいゲームだった。佐藤が、後半マンツーマンにあい、攻撃リズムをくずされたのが敗因と思われるが対マンツーマン戦術の強化が望まれる一戦だった。

ベテラン佐藤の健在を見せつけた試合だった。

第5週（前期最終週）

◆第1日▽7月21日・京都府立体育館　観客　一、〇〇〇

・女子

立石電機　12（7―4 / 5―3）7　大和銀行

	【大和】	得
GK	丸山	0
	茂利	0
FP	宮本	2
	富家	3
	増永	0
	東木	0
	米山	2
	西田	0
	門	0
	千原	0
	鈴木	0
	若杉	0

得	【立石】	
0	丸山	GK
0	井村	
0	姫野	FP
1	桑原	
0	亀園	
3	紀野	
0	是枝	
3	羽立	
1	橋ノ口	
0	福永	
4	薮田	
0	喜久山	

（審・吉田　木藤）

大和銀行は立ち上りから攻撃の歯車がかみ合わず、個人技が目立つ展開となってしまった。後半の巻き返しに期待されたがスタミナ不足のせいか思うようにチャンスを生かしきれなかった。

一方立石電機は、10番薮田のロングシュートが確実に決り、スカイプレーで大和銀行の防御を切りくずした。

立石が6本中4本のスカイプレーを成功させたのが勝利に結びついたものと思う。

・男子

本田技研鈴鹿　28（11―11 / 17―6）17　三陽商会

	【三陽】	得
GK	吉近	0
	田村	0
FP	関	5
	金子	0
	梅屋	1
	坪子	4
	稲木	0
	三上	1
	石原	0
	鵜沢	2
	尾形	3
	大熊	1

得	【本田】	
0	柴田	GK
0	大田	
10	田上	FP
8	佐藤	
2	喜井	
1	豊岡	
1	佐々木	
1	矢野	
1	西田	
0	吉山	
3	高橋	
1	谷元	

（審・島野　光狩）

前半立上り5分までに3対1と好スタートを切った三陽商会だったが、本田技研も6分に3対3と追いついた。その後は、1点を争うゲーム展開となった。

後半も10分を過ぎるまでシーソーゲームが続いたが、三陽商会の粘りもここまでで、その後は一方的な本田技研ペースとなってしまった。

◆第2日・7月22日、広島県立体育館　観客　一、〇〇〇

・男子

日新製鋼　30（11―11 / 19―7）18　大阪イーグルス

速攻を主体とするイーグルスとセットオフェンスからポストプレーを中心に攻撃を展開する日新の争いとなった。立ち上り、イーグルスのリードで進められてきたが9分に日新がペナルティを決め同点にしたあたりから一点を争う好ゲームになり、11対11で前半を終えた。後半はやや大味の試合展開となった。日新は大庭、吹上などの活躍により前期初の一勝をあげた。

	【イグ】	得
GK	広川	0
	本田	0
FP	高橋	3
	源畠	1
	橋本	5
	河原崎	1
	早川	0
	福井	4
	杉尾	0
	三谷	2
	勝本	2
	山口	0

得	【日新】	
0	三田	GK
0	筒本	
2	泉	FP
3	徳田	
5	大庭	
7	吹上	
5	脇若	
3	森	
5	下茂	
0	湯中	
0	一瀬	
0	高木	

（審・新村　吉田）

・男子

大同特殊鋼　15（6―7 / 9―7）14　湧永薬品

	【湧永】	得
GK	福井	0
	大城	0
FP	津川	5
	穂積	1
	藤本	1
	志賀	0
	戸田	0
	松本	2
	山本	2
	原田	0
	生駒	2
	池ノ上	1

得	【大同】	
0	柳川清	GK
0	大園	
0	藤中	FP
3	中井	
1	松原	
1	花輪	
4	柳川実	
3	大原	
0	中本	
3	蒲生	
0	浦田	
0	小野	

（審・島野　光狩）

両チームとも相手の手の内を知りつくした対決だったが、大接戦の末、大同の逆転となった。

湧永は大同の9番蒲生を徹底的にマークし、GK福井の好守に助けられ、湧永優位のうちに前半を終了した。

後半も湧永優位のうちに試合が進んでいったが、大同は21分に中井の得点で同点とした。その後一点を争う好試合となったが、28分30秒大同柳川が15点目をあげて勝ちこし、湧永の反撃をおさえて、5戦全勝、首位で前期を折り返した。

日本リーグに望む（投稿）

東京　桜井　善一

日本リーグができて4年目になるが、どうもパッとしない。

一つには、優勝チームが固定化してしまい、レース展開に意外性のないことがあげられる。

いわゆるBクラスチームの奮起がない限り、この悩みは解決できまい。

また、在京チームの低調も一因だ。在京チームが強ければ、観客も沸こう。各チームに要望したいのは、是非、外人選手を加えて欲しいということ。サッカー、バスケットボール、アイスホッケーなどの人気は、外人によるところが大きいのだ。

西ドイツ戦の東京大会の翌日、日本リーグがあったが、この時の女子など、西ドイツ戦の前座に組みこむような日程編成の工夫も望みたい。このままでは、日本リーグは尻つぼみの危険さえあろう。

報告 ①

IHF・レフェリーとトレーナーシンポジューム

安藤純光
（日本協会常務理事）

6月20日、22時30分発のJAL四二三便は一路ロンドンに向って定時に出発、21日7時05分（ロンドン時間）に着いた。バッキンガム・パレス、ピカデリー・サーカスのあたりは相変らずのにぎわいを見せていた。

翌22日、13時20分発の Jugo Slovenski Aerotransport Pan Adriaは、3時間30分のおくれ、その先がどうなるかと心配させられたが3時間の飛行の後、途中ザグレブを経て20時40分着と予定の時間より大幅におくれたが、それでもベルグラーデでユーゴスラビアでの第一日を過すことができたベルグラーデの気候は、東京と同じような感じで、日本の梅雨を思わせる小雨が22日も23日も降りつづいていた。町全体に緑が多く、雨にぬれた緑が一層あざやかに見えた。車で少し走ればすぐ郊外に出て、ひろびろとした田園風景が展開する。

23日、目的地プーラに向う。どういうわけか、プーラへの便は早朝と夜しかない。ベルグラーデ19時発の便が一時間おくれ20時発、途中アドリアカに寄って21時30分着、宿舎となるホテル・プーラに向う。

プーラは、イタリヤとの国境近くアドリア海に面し、ベネチャ湾をはさんでベネチアと向い合った保養地でヨーロッパの各地から海水浴をたのしみに沢山の人々が来ていた。ベルグラードとはちがって、すでに夏の太陽がさんさんと降りそそぎ、青い空とあおい海が美しく、港には大きな船の姿を見ることができる。町は小さいが円形劇場などの歴史を物語る遺跡がある。

宿舎および会場となるホテル・プーラは、約200ほどの部屋をもつリゾートホテルであった。空港からバスで30分ほどの町はずれの小高い所に建っている。ホテルのベランダからは、アドリア海が右手にひろがり、左手にはなだらかな緑の丘陵地帯の中に赤い屋根の家が点在しているといった、いわゆるヨーロッパの田園風景が望まれのんびりしたそして美しい眺めであった。

もう一つの会場となる体育館はホテルから歩いて10分たらずのところにあり、ハンドボールの競技場が、丁度おさまる大きさのフロアーと約二〇〇〇ほどの観覧席をもつ大きさのものであった。体育館は通気が悪く、むしむしと暑く夜でも水分をとらなければ干物になってしまうような暑さであった

今回のシンポジュームは、従来のセントラルコースとは異なったものであった。IHFは、以後4年毎に、オリムピックの前年に今回と同様なシンポジュームを、そして、オリンピックの翌年に従来のセントラル・コース（レフェリーとトレーナーを別々に開催）を開催することになった。今回は第一回目のIHFの組織の競技に関係する委員会の協同事業としてのシンポジュームであった。参加者は、加盟各国のレフェリーのチェアーマンとトレーナー（ナショナルチームのトレーナーあるいはそれに準ずる者）……Aグループ。パネルBのレフェリーコース参加者……Bグループ。そしてユーゴスラビア・ハンドボール教室の参加者……Cグループ。さらに同時に開催（組織は別）されたユーゴスラビア・カップ参加の6カ国チーム（ソビエット・東ドイツ・ルーマニア・ポーランド・スウェーデン・ユーゴスラビア）の関係者など、43カ国あわせて三〇〇名を越える数であった。

主催する国際ハンドボール連盟（IHF）からは、会長ポール・ヘグベルグ、理事長マックス・リンケンブルガー、事務局長フリードヘルム・ペップマイヤーをはじめとして、ルールとレフェリーの委員会（RSK）委員長カール・E・ヴァングと各委員、技術委員会（TMK）委員長イワン・クンスト・ゲルマネスクと各委員などであった。

さて、シンポジュームは24日9時から、体育館の観覧席を使っての開会式で始まった。ブラスバンドの演奏のあとIHF会長、ユーゴスラビア・ハンドボール協会長のあいさつ、プーラ市長の歓迎のあいさつがあり、若い男女たちによる民族舞踊が演じられたあと、カール・E・ヴァング、イワン・クンスト・ゲルマネスク両委員長によって参加者の紹介……いつもなら参加者一人一人の紹介が行なわれるが、今回は参加人数も多いので……参加国単位に行なわれた参加国は、43カ国と聞いた。アジア地域からの参加は、日本・クウエート・サウジアラビア・パレスチナ・カタールなどであった。ほとんどの国は3〜4、多いところでは10名も参加していた。モスクワ・オリンピックを前にしてのシンポジュームでもあり、各国の意欲の一端もうかがうことができる

以後、29日の閉会式まで6日間次のような時間割によってシンポジュームが進行した。

06・45〜07・45　朝食
08・00〜13・00　シンポジューム
13・00〜14・00　昼食
15・00〜17・45　シンポジューム
18・30〜19・15　夕食
19・30〜22・20　ユーゴスラビア・カップ（3ゲーム）

シンポジュームは、そのテーマによってホテルのバンケットルームで、また参加者全体が参加するテーマあるいは実技をともなうものについては体育館を使用して行なわれた。早朝から夜まで組まれたスケジュールをきちんと消化してゆく彼らのタフさには、いまさらながら感銘した。8時間の時差というギャップをもつ私には、大変な努力が必要であった。

シンポジュームのテーマについては、順次報告することにするがこの同期間に別な組織で開催されたユーゴスラビアカップは、前述の6チーム（いずれもナショナル

チーム）のリーグ戦で開催、毎夜3ゲームが行なわれた。10年前に6カ月ヨーロッパに滞在して、その間にいくつかの国際競技を見てはいるが、記憶がうすれているのか今回はそのはげしさ・・・におどろいた。競技は、ソビエトの提案する45秒ルール（シンポジュームのテーマになっている）で行なわれた初日は、レフェリーもオフィシャルもとまどいがあって競技が中断される場面があった（これについては45秒ルールの項で詳細に報告する）。

参加したチームが、スウェーデンをのぞいては東側チームであったこともあるかもしれないが、もてる体力を駆使してのハンドボールは、ねじこみ・ハンドボールあるいはパワー・ハンドボールとハンドボールの上に何か形容詞をつけなければならないような感じがしたカール・E・ヴァング氏と並んで観戦する機会があった。彼はこれらのプレーを見てにがい顔をして「力や体力にまかせての激突するハンドボールには困ったものだ」といっていた。この問題は、73年75年、77年のセントラルコースでも常に問題とされ、前委員長エミール・ホルレ氏健在のころからの問題であった。とくに75年のシッタルドでのセントラルコースで、マックス・リンケンブルガー氏が講演してこの問題にふれている（機関誌No.139）ことを思い出す。今日でも依然として大きなテーマとして存在している。IHFの首脳は、この問題で苦悩している。ハンドボールの健全な発達を願うならば、如何に困難な問題であっても解決しなければならない。第2のヨアヒム・デックアルムを生まないためにも。このユーゴスラビアカップでも前日プレイしたプレイヤーが、片足をそっくりギブスでかためてスタンドで観戦するという姿を見て、その感心ひとしおであった。

ユーゴスラビアトロフィーの成績は次の表の通りで、トロフィーはソビエトの手に渡った。

これらの競技をビデオにとり、翌朝のシンポジュームの中でプレイおよびレフェリーの判定についての分析が行なわれた。

第18回ユーゴトロフィー男子国際大会勝敗表

	ソ連	ユーゴ	東独	ルーマニア	ポーランド	スウェーデン
ソ連（1位）		○ 27（11—11, 16—13）24	○ 28（16—14, 12—10）24	○ 28（13—13, 15—12）25	△ 20（9—11, 11—9）20	○ 26（12—9, 14—4）13
ユーゴ（2位）	● 24—27		○ 29（16—13, 13—14）27	○ 27（16—10, 11—14）24	○ 27（16—15, 11—10）25	○ 24（11—7, 13—9）16
東独（5位）	● 24—28	● 27—29		● 19（10—15, 9—11）26	● 26（16—16, 10—15）31	○ 27（14—14, 13—10）24
ルーマニア（3位）	● 25—28	● 24—27	○ 26—19		△ 25（12—14, 13—11）25	○ 27（13—8, 14—13）21
ポーランド（4位）	△ 20—20	● 25—27	○ 31—26	△ 25—25		○ 27（14—13, 13—13）26
スウェーデン（6位）	● 13—26	● 16—24	● 24—27	● 21—27	● 26—27	

中国、IHF加盟申請か

【速報】本誌が、極めて信用すべき筋から得た情報によると、中国が、早ければ、今月内にも、IHF（国際ハンドボール連盟）へ、加盟申請を行なう模様である。

中国ハンドボール界は、すでに5年前、完全に復活、国際交流も積極的に行われ、無活動といわれた女子も、最近、フランス女子の訪中が明きらかとなっている。

アジア・ハンドボール界の結集にも、意欲的な動きを示し今秋11月、第2回アジア選手権（男子のみ）の招致を決めるなどしている

しかし、IHFに対しては、これまでほとんど接触がなく、台湾が在籍する限り、加盟意思を示すまいといわれていた。

それが、今回のような動きになったのは、今春来、IOC（国際オリンピック委）への復帰が具体化し、「台湾問題」にもやや柔軟な姿勢をとるようになった中国々内の情勢が手伝っているとみられる。

"定着"した岐阜、静岡のクラブ大会

一般クラブによる「プライベート・トーナメント」として定着しはじめた二つの全国大会が相次いで開かれ、盛況だった。

まず、7月21、22の両日岐阜市で行われた第4回全国女子クラブ大会（岐阜カップ）は、8クラブが集まり、武蔵野ク（東京）が初優勝。

つづいて、8月3日から5日まで静岡市で第3回全国クラブ大会静岡大会（静岡カップ）が開かれ、大崎電気愛好会（東京）が初優勝した。

岐阜カップ

参加8クラブを2組に分け予選リーグのあと、各組同位が1～8位を争う"IHF法式"。

予選A組では、寝屋川ク（大阪）が、前年1位の京都ク（京都）を破り、そのあと、むつみケ丘ク（三重）に苦杯をなめさせられながら決勝へ進出。

一方、B組は、一週前、関東クラブを制した武蔵野ク（東京）が好調を持続、圧倒的な試合ぶりで勝ちあがった。

寝屋川×武蔵野の決勝は、現況の女子クラブ界では、最高といってよい内容になり、予断を許さなかったが、"若手"を揃えた武蔵野クのスピードが、時間の経過とともに、寝屋川クを圧しはじめ、後半なかば、勝負が決まった。

▽予選リーグ・A組

京都ク（京都）　8―2　むつみケ丘ク（三重）
寝屋川ク（大阪）　11―9　笠松ク（岐阜）
寝屋川ク　10―7　京都ク
笠松ク　8―6　むつみケ丘ク
むつみケ丘ク　16―9　寝屋川ク
京都ク　18―6　笠松ク

【順位】①寝屋川ク2勝1敗②京都ク2勝1敗（両者の対戦成績で寝屋川クが1位）③笠松ク1勝2敗④むつみケ丘ク

▽同・B組

武蔵野ク（東京）　29―6　伊吹ク（岐阜）
オール宮崎（宮崎）　11―9　風見鶏ク（兵庫）
武蔵野ク　21―7　オール宮崎
風見鶏ク　13―10　伊吹ク
オール宮崎　14―3　伊吹ク
武蔵野ク　17―7　オール宮崎

【順位】①武蔵野ク3戦全勝②オール宮崎2勝1敗③風見鶏ク1勝2敗④伊吹ク3敗

▽7・8位決定戦

むつみケ丘ク　12（9―3、3―5）8　伊吹ク

▽5・6位決定戦

風見鶏ク　14（8―4、6―4）8　笠松ク

▽3・4位決定戦

京都ク　13（7―4、6―2）6　オール宮崎

▽決勝戦

武蔵野ク　19（7―6、12―4）10　寝屋川ク

静岡カップ

過去2連勝の佐世保ク（長崎）こそ姿を見せなかったが、18都府県から24チーム（棄権1）が、今年も元気に、静岡へ繰りこんできた。特に、今年度は、国体で、成年男子に全県参加の道が開かれている。"初出場"のクラブも目についた。

試合は1回戦から、せり合いがつづき、かつらおク（長野）×鵜の森ク（三重）は、PTCに持ちこまれた。

2回戦でも、松山ク（愛媛）×雪陵ク（大阪）、七戸ユニオン（青森）×伏見ク（京都）が、一進一退の接戦をつづけた。

激戦のなかで、高レベルを示したのは、準決勝に勝ち残った4チームで、個人技中心になるのはやむを得ないとしても、それらのプレーを巧みにつなぎ合わせていく技術が、これらのチームにはあった。

準決勝の大崎電気愛好会（東京）×高知ク（高知）は、関係者誰もが「決勝戦」とみていたが、はたして、好内容となり、わずかに、GKに、かつての世界選手権代表・福本をもつ大崎が、ディフェンスで高知を上回り、この一戦をものにした。

一方のブロックからは、金沢あすなろク（石川）が、進出した。クラブ創立が48年。地道な活動をつづける好チームだ。

大崎との決勝は、あすなろのGK酒谷（元世界学生選手権代表）と福本の好守で、締まった内容になったが、大崎は、井上（元世界選手権代表）の好リードからチャンスを巧くものにし、食い下るあすなろを振り切り、初優勝した。

▽1回戦

花巻ク（岩手）　37―6　岐阜南ク（岐阜）
富士ク（静岡）　17―15　関金ク（鳥取）
雪陵ク（大阪）　26―17　気賀ク（静岡）
光陽会（福井）　24―17　土浦三高OB（茨城）
かつらおク（長野）　15―15　鵜の森ク（三重）
PTC3―2でかつらおクの勝ち
清商ク（静岡）　22―11　富山想球会（富山）
静農ク（静岡）　26―15　スターズ（福井）
伏見ク（京都）　35―13　竜ケ崎ク（茨城）

▽2回戦

高知ク（高知）　31―12　花巻ク
麻生ク（茨城）　21―14　富士ク
松山ク（愛媛）　24―23　雪陵ク
大崎電気愛好会（東京）　37―16　光陽会
かつらおク　17―13　呉ベアーズ（広島）
静農ク　棄権　県和商ク（和歌山）
金沢あすなろ（石川）　22―12　清商ク
七戸ユニオン（青森）　18―16　伏見ク

▽準々決勝

高知ク　28（13―6、15―8）14　麻生ク
大崎電気愛好会　28（11―10、17―5）15　松山ク
金沢あすなろク　18（7―8、11―7）15　かつらおク
七戸ユニオン　24（13―4、11―7）11　静農ク

▽準決勝

大崎電気愛好会　21（11―8、10―6）14　高知ク
金沢あすなろ　20（9―8、11―9）17　七戸ユニオン

▽決勝

大崎電気愛好会　22（11―9、11―9）18　金沢あすなろ

ブロック高校選手権　続報

第29回　近畿高校

◇7月23〜25日・京都府平安高、参加男24、女16校

男女とも、昨年の優勝校の連勝となった。

男子は此花学院(大阪)が、準々決勝で、明石(兵庫)に押しまくられ、辛くも逆転、決勝でも、御坊商工(和歌山)の食い下りにあったが、勝負強さをみせて逃げ切った。

女子は、夙川(兵庫)が危気ない試合ぶりを示し、地元インターハイへの期待を高めた。

▽男子1回戦

枚方(大阪) 15 (9-2, 6-7) 9 米原(滋賀)

橿原(奈良) 11 (4-5, 7-4) 9 新宮(和歌山)

向陽(京都) 17 (9-3, 8-3) 6 奈良(奈良)

都島工(大阪) 17 (6-1, 11-4) 5 洛北(京都)

彦根東(滋賀) 15 (10-4, 5-8) 12 宝塚(兵庫)

和歌山商(和歌山) 10 (7-3, 3-4) 7 鈴蘭台(兵庫)

添上(奈良) 6 (1-2, 5-3) 5 伏見工(京都)

摂津(大阪) 16 (6-4, 10-3) 7 安曇川(滋賀)

▽同2回戦

此花学院(大阪) 17 (7-4, 10-2) 6 摂津

八幡工(滋賀) 15 (3-5, 7-5 : 2-1, 3-0) 11 和歌山商(和歌山)

明石(兵庫) 7 (3-2, 4-1) 3 添上

都島工 13 (6-2, 7-4) 6 生駒(奈良)

桃山学院(大阪) 15 (5-3, 10-5) 8 彦根東

乙訓(京都) 14 (7-6, 7-5) 11 橿原

御坊商工(和歌山) 8 (5-3, 3-4) 7 向陽

枚方 7 (4-4, 3-2) 6 武庫工(兵庫)

▽同準々決勝

此花学院 15 (5-8, 10-6) 14 明石

御坊商工 9 (5-1, 4-6) 7 桃山学院

都島工 9 (5-3, 2-4 : 0-1, 2-0) 8 八幡工

枚方 18 (10-3, 8-2) 5 乙訓

▽同準決勝

此花学院 13 (6-3, 7-5) 8 都島工

御坊商工 6 (3-1, 3-2) 3 枚方

▽同決勝

此花学院 14 (7-7, 7-6) 13 御坊商工

▽女子1回戦

夙川学院(兵庫) 20 (10-1, 10-2) 3 御坊商工(和歌山)

守山女(滋賀) 9 (5-0, 4-4) 4 西京商(京都)

彦根南(滋賀) 4 (3-2, 1-1) 3 宜真(大阪)

塔南(京都) 11 (5-0, 6-3) 3 新宮(和歌山)

大津商(滋賀) 14 (9-1, 5-4) 5 添上(奈良)

春日丘(大阪) 12 (5-2, 7-2) 4 県立伊丹(兵庫)

京都女(京都) 10 (6-3, 4-5) 8 郡山(奈良)

大谷(大阪) 12 (4-1, 8-5) 6 明石(兵庫)

▽同準々決勝

夙川学院 17 (7-3, 10-5) 8 大津商

彦根南 8 (6-3, 2-1) 4 京都女

春日丘 13 (8-1, 5-3) 4 守山女

大谷 9 (5-1, 4-1) 2 塔南

▽同準決勝

彦根南 6 (2-3, 3-2 : 1-0, 0-0) 5 大谷

夙川学院 10 (5-4, 5-3) 7 春日丘

▽同決勝

夙川学院 9 (7-1, 2-2) 3 彦根南

第28回　四国高校

◇7月22、23日　香川高松工芸高、参加男子8、女子8校

男子は、過去23回優勝という新居浜工(愛媛)が、ホームコートの高松工芸(香川)の善戦にあったが、後半に地力を発揮して逆転、4連勝。

女子は、予想どおり愛媛勢の決勝から、新居浜商が、新居浜西に先行を許しながら、後半ペースを握り6連勝12度目の制覇を遂げた。他では大正(高知)の健闘が目立った。

▽男子1回戦

幡多農(高知) 21 (9-2, 12-3) 5 徳島東工(徳島)

新居浜工(愛媛) 16 (8-5, 8-6) 11 高松商(香川)

高松工芸(香川) 20 (10-2, 10-8) 10 新田(愛媛)

土佐(高知) 12 (7-5, 5-3) 8 池田(徳島)

▽同準決勝

新居浜工 27 (14-4, 13-4) 8 幡多農

高松工芸 13 (9-4, 4-7) 11 土佐

▽同3位決定戦

幡多農 16 (10-3, 6-9) 12 土佐

▽同決勝

新居浜工 12 (4-5, 8-2) 7 高松工芸

▽女子1回戦

大正(高知) 11 (6-0, 5-3) 3 高松一(香川)

新居浜商(愛媛) 12 (5-0, 7-2) 2 辻(徳島)

新居浜西(愛媛) 12 (6-3, 6-1) 4 高松南(香川)

池田(徳島) 9 (6-3, 3-5) 8 高知東(高知)

▽同準決勝

新居浜商 9 (5-6, 4-2) 8 大正

新居浜西 18 (8-4, 10-3) 7 池田

▽同3位決定戦

大正 12 (3-6, 9-3) 9 池田

▽同決勝

新居浜商 8 (4-2, 4-3) 5 新居浜西

第29回　九州高校

◇7月22、23日　長崎佐世保西高、参加男子16、女子16校。

男子は、春のセンバツ2位、夏のインターハイで有力候補に推されている久留米工大附属(福岡)が各校の照準にあてられながら、エース若杉の活躍などで勝ち進み、2年ぶり4度目の優勝を遂げた。

女子は、熊本女商(熊本)が、準決勝で、強敵・小林商(宮崎)に激しく追いこまれながら、辛くもかわし3年連続4度目の栄冠を握った。

▽男子1回戦

浦添(沖縄) 20 (8-9, 12-10) 19 大分電波(大分)

久工大付(福岡) 25 (12-6, 13-6) 12 財部(鹿児島)

佐世保西(長崎) 23 (11-7, 12-5) 12 佐賀農(佐賀)

小林工(宮崎) 21 (8-6, 13-7) 13 熊本市商(熊本)

都城泉ケ丘(宮崎) 16（8－7、8－8）15 鹿児島工(鹿児島)
佐世保北(長崎) 19（8－6、5－7、…、3－0、3－1）14 鶴崎工(大分)
マリスト(熊本) 37（20－4、17－9）13 佐賀西(佐賀)
首里(沖縄) 14（5－10、9－3）13 小倉工(福岡)

▽同準々決勝

久工大附 10（5－4、5－4）9 浦添
小林工 20（11－6、9－8）14 佐世保西
佐世保北 19（9－5、10－9）14 都城泉ケ丘
マリスト 24（9－8、15－9）17 首里

▽同準決勝

久工大附 14（5－5、9－8）13 小林工
マリスト 17（8－4、9－5）9 佐世保北

▽同3位決定戦

小林工 21（10－6、11－8）14 佐世保北

▽同決勝

久工大附 25（12－5、13－7）12 マリスト

▽女子1回戦

神埼農(佐賀) 19（8－1、11－4）5 長崎日大(長崎)
小林商(宮崎) 20（8－2、12－4）6 大分雄城台(大分)
熊本女商(熊本) 11（5－4、6－4）8 福岡(福岡)
国分実業(鹿児島) 14（6－3、8－3）6 浦添(沖縄)
前原(沖縄) 17（8－5、9－4）9 西都商(宮崎)
島原農(長崎) 12（5－3、7－5）8 純心女(鹿児島)
大分東(大分) 10（2－2、8－4）6 熊本市立(熊本)
筑紫女(福岡) 9（5－4、4－2）6 佐賀女(佐賀)

▽同準々決勝

小林商 10（7－5、3－4）9 神埼農
熊本女商 9（4－0、5－3）3 国分実業
島原農 14（6－5、8－6）11 前原
大分東 20（7－2、13－8）10 筑紫女

▽同準決勝

熊本女商 7（4－2、3－4）6 小林商
大分東 17（9－4、8－5）9 島原農

▽同決勝

熊本女商 12（5－3、7－5）8 大分東

各地の記録

三春台ク、4年ぶり

第9回関東クラブ選手権は、7月14、15の両日、茨城・笠間市民体育館に、男子8、女子5チームが参加して行われた。

男子は、最近3連勝の稲球会（東京）が姿を見せず、混戦とみられたが、古豪・三春台ク(神奈川)が、大崎電気愛好会（東京）に逆転勝ち、4年ぶり5度目の優勝を飾った。

女子は、前年1位の武蔵野ク（東京）が、今年も安定した強味を示し、2連勝を遂げた。

▽男子1回戦（＝準々決勝）

三春台ク(神奈川) 29（15－4、14－6）10 甲府ク(山梨)
富岡ク(群馬) 29（15－5、14－4）9 清水ク(千葉)
笠間ク(茨城) 17（9－10、8－4）14 AOK栃木(栃木)
大崎電気愛好会（東京） 16（10－9、6－2）11 4・6G会(埼玉)

▽同準決勝

三春台ク 24（10－5、14－10）15 富岡ク
大崎電気愛好会 21（8－9、13－3）12 笠間ク

▽同決勝

三春台ク 23（11－12、12－9）21 大崎電気愛好会

▽同敗者トーナメント1回戦

甲府ク 棄権 清水ク
4・6G会 20－12 AOK栃木

▽同2回戦

4・6G会 20－14 甲府ク

▽女子1回戦（1試合）

前橋ピジョンズ（群馬） 10（5－3、5－3）6 日川ク(山梨)

▽同準決勝

武蔵野ク(東京) 16（7－1、9－3）4 昭和学院ク(千葉)
笠間ク(茨城) 14（7－5、7－6）11 前橋ピジョンズ

▽同決勝

武蔵野ク 20（10－7、10－7）14 笠間ク

▽同敗者リーグ

前橋ピジョンズ10－6日川ク
日川ク 11－9 昭和学院ク
前橋ピジョンズ6－6昭和学院ク

岩国クが巧い試合運び

第24回（女子第7回）中国一般選手権は5月19、20日の2日間、岡山県体育館に男子15、女子6チームが参加、トーナメント法式で行なわれた。

男子は、中国実業団選手権実現の促進を前提とする日本リーグ勢辞退の申し合わせで、最近3連勝の湧永薬品（広島）が欠場、優勝争いに興味をもたせたが、元三菱レイヨン大竹（広島）勢を主力とした岩国ク（山口）が、試合運びの巧さをみせて、他チームを圧倒決勝でも伝統の山口県教員団を前半で引き放し快勝した。

岩国クとしては初優勝だが、岩国工OB時代を通算すると22年ぶり3度目の優勝、山口代表の優勝は4年ぶり。

女子は、予想どおり山口勢が強く、なかでも徳山クは抜群。危気なく5連勝を飾った。

▽男子1回戦

山口県教員団(山口) 39－29 児島ク(岡山)
朝酌ク(島根) 25－18 岡山大(岡山)
徳山ク(山口) 30－19 呉HB同好会(広島)
武田薬品光(山口) 32－12 中部ク(鳥取)
津山工専(岡山) 34－20 江津ク(島根)
岡山教員(岡山) 25－19 境港市ク(鳥取)
岩国ク(山口) 28－9 三原ク(広島)

▽同準々決勝

岩国ク 21（13－4、8－7）11 岡山教員
武田薬品光 29（14－16、15－8）24 津山工専
徳山ク 33（19－5、14－12）17 朝酌ク
山口県教員団 35（15－7、20－8）15 広島県教職員(広島)

▽同準決勝

山口県教員団 23（13－10、10－12）22 徳山ク
岩国ク 34（17－8、17－9）17 武田薬品光

▽同決勝

岩国ク 39（20－9、19－13）22 山口県教員団

▽女子1回戦（2試合）

松江ク(島根) 15－3 津山ク(岡山)
徳山ク(山口) 18－11 米子南OG(鳥取)

▽同準決勝

岩国ク(山口) 13（9－3、4－4）7 松江ク
徳山ク 20（8－3、12－3）6 広島HFG

▽同決勝

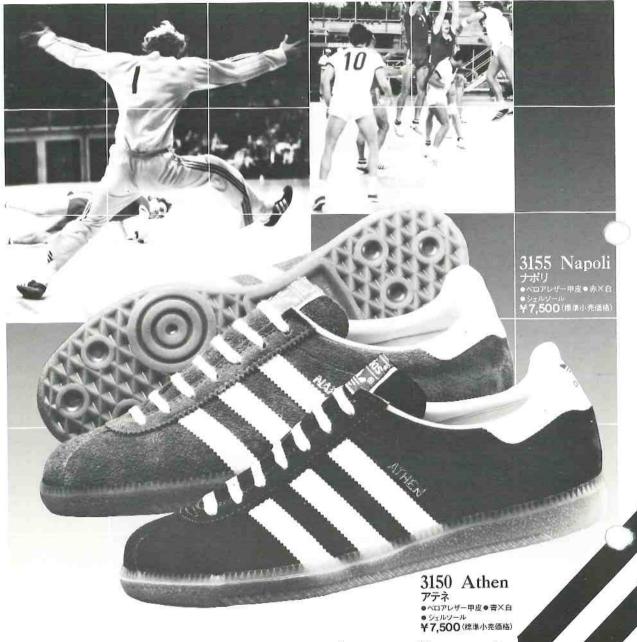
徳山ク 14（9－3、5－4）7 岩国ク

投稿歓迎

日本リーグ観戦記、あすへの提言、各地大会記録などを編集部あてお送り下さい。

アディダスで正しいテクニックを身につけたい。

3155 Napoli
ナポリ
●ベロアレザー甲皮●赤×白
●シェルソール
¥7,500（標準小売価格）

3150 Athen
アテネ
●ベロアレザー甲皮●青×白
●シェルソール
¥7,500（標準小売価格）

デンマーク・ワールドチャンピオンシップでも、優勝ドイツチームを始め、世界16ヶ国の代表選手の78%もがアディダスハンドボールシューズでした。そのヒミツは、誰にも負けない経験と実績、そして技術開発力を背景に、世界のトップ選手のアドバイスを商品開発にダイレクトに生かしているからに他なりません。ストップ、ターン、グリップに理想的なアディダス独自のソール設計。足への文句のないサポート感。加えて、足を良く守るヒールカウンター、パッド…。大切なゲームであなたに必要なのはこのアディダス機能です。

adidas® The science of sport.

The all-sports people

●お求めはadidas特約店で

発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社
〒532 大阪市淀川区木川東2−5−3 ☎06・305−1431
〒130 東京都墨田区緑2−12−3 ☎03・634−1411

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一七七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭[illegible]五四年七月二十五日印刷
昭和五四年八月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都[illegible]区神南一ー一ー一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円
(年間購読料三千三百円)